THE EVANGELION

FINDOUT

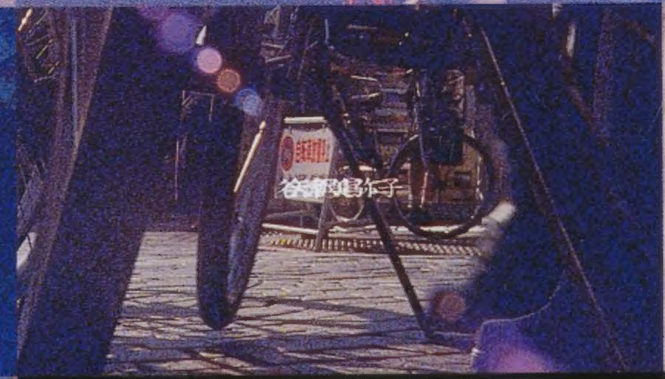
MANTRA

座口編

MANTRA

スタッフ
(五十音順)

スタッフ
(五十音順)



THE END OF EVANGELION

新世紀エヴァンゲリオン劇場版　Air/まごころを、君に

では、
あなたは何故、ココにいるの？

…ココにいても、いいの？

7月19日(土)ロードショー

オリジナルポスター付前売券発売中

一般：1500円　　学生：1200円

EVA製作委員会作品　　配給／東映　　この作品はアニメーションです

MANTRA

解説

■『THE END OF EVANGELION』は、『新世紀エヴァンゲリオン』の完結編である。この映画は、第25話「Air」と第26話「まごころを、君に」の2話で構成されている。

■TV版の第弐拾四話「最後のシ者」のラストで、主人公・碇シンジは初めての理解者であり、最後の使徒でもあった渚カヲルを自分の手で殺してしまった。第25話「Air」の物語は、その直後から始まる。つまり、第25話、第26話は、TV版の第弐拾四話「最後のシ者」に続くエピソードである。

■TV版では、第弐拾四話の後に、第弐拾伍話「終わる世界」と最終話「世界の中心でアイを叫んだけもの」が放映され、完結している。つまり、第弐拾四話のラストの後で『エヴァンゲリオン』の物語は二つに枝分れするというかたちになっている。TV版の第弐拾伍話と最終話がひとつの結末であり、『THE END OF EVANGELION』の第25話と第26話が、もうひとつの結末というわけだ（ちなみに、TV版の話数は漢数字を、今回の映画の話数は算用数字を使用）。

■TV版『新世紀エヴァンゲリオン』は、1995年10月から翌年3月まで放映されたシリーズである。企画・原作は『王立宇宙軍　オネアミスの翼』や『ふしぎの海のナディア』等の作品で、また、『プリンセスメーカー』等のゲームで知られるGAINAX。アニメーション制作はタツノコプロとGAINAXの共同だった。

■『新世紀エヴァンゲリオン』はその企画時より、今回の映画版まで、監督である庵野秀明を中心に進められてきた。テーマ、物語の骨格から、個々の描写、台詞のひとつひとつに至るまで、彼の作家性で彩られた作品と云っていい。

■TV放映時より、『エヴァンゲリオン』は多くのファンに熱烈に支持され、また、数多くの話題を生み出した。魅惑的なSF設定、ダイナミックな戦闘シーン、キリスト教的なモチーフや精神分析の用語をドラマ本編に取り入れる衒学趣味、超高密度の情報量。『エヴァンゲリオン』は、そのどれをとっても従来のアニメの枠を越えた、「新世紀」のタイトルに相応しい作品だった。その人気の高まりは、かっての大ヒット作『宇宙戦艦ヤマト』『機動戦士ガンダム』に匹敵するものであり、「エヴァ現象」とも呼ばれた。

■「人の心」の問題は『エヴァンゲリオン』の、大きなテーマであり、他の作品にはない本作の魅力のひとつである。他者との関係、自分の存在意義、自分とは何なのだろうか——。『エヴァンゲリオン』は、リアルタッチのSFメカアクションとしてスタートした。最初、主人公達の「人の心」はドラマの味つけ的なものかと思われた。だが、シリーズが進むうちに、メカアクションや謎解きの要素よりも、「人の心」の問題の方が大きくなっていった。そして、TV版の最終話「世界の中心でアイを叫んだけもの」は、ついに主人公の碇シンジの内面世界のみで物語が進むという異色のエピソードとなった。それは、テーマ的には充実したものであったが、登場人物のドラマや、設定的な説明は半ば放り出されたかたちの結末だった。

■未完とも云えるTVシリーズの最終回は、大変な話題となった。ドラマの完結を、謎の解明を、あるいは新たな物語を、望むファンの声は強かった。その期待に応えるかたちで、第弐拾伍話、最終話がリメイクされる事になった。

■リメイク版の第25話、第26話は、最初、ビデオソフトとして発表されるはずだったが、制作中にそれが劇場で公開される事になった。TV版の総集編である『DEATH』編と、クライマックスのリメイクである『REBIRTH』編の2本で構成された『EVANGELION DEATH AND REBIRTH』（「新世紀エヴァンゲリオン劇場版 シト新生」）である。だが、リメイクの内容が予定以上に膨らんでしまったため、『REBIRTH』の内容は、第25話の2/3の程度の部分のみとなった。『EVANGELION DEATH AND REBIRTH』は、完結編第1弾という扱いで、1997年3月に公開された。

■『EVANGELION DEATH AND REBIRTH』から、4ヶ月。いよいよ完結編完全版が公開される。それが、この『THE END OF EVANGELION』である。

■前述のように『THE END OF EVANGELION』は、TV版第弐拾四話「最後のシ者」に続く物語である。全ての使徒は死んだ。ついに最終段階へと動き出す、ゼーレの人類補完計画。特務機関ネルフを襲う戦略自衛隊。弐号機に乗ったアスカとエヴァシリーズ量産機の死闘。明かされる謎。そして、人類の補完の行方は。碇シンジの心は……。第25話「Air」、第26話「まごころを、君に」は、登場人物のドラマ、アクション、謎解き等、映画的な見所もふんだんに盛り込み、その一方で実験的な手法に挑み、TV版のクライマックス同様に「人の心」の問題に真正面から取り組む。名実ともに『新世紀エヴァンゲリオン』の、完結編完全版である。

■総監督・脚本は庵野秀明。演出は、第25話「Air」が鶴巻和哉、第26話「まごころを、君に」演出が庵野秀明。アニメーション制作は、『EVANGELION DEATH AND REBIRTH』と同じく、PRODUCTION I.GとGAINAXの共同である。

■総時間約87分。

MANTRA

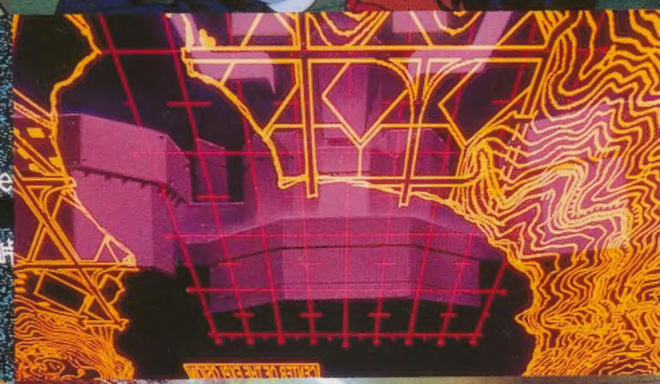
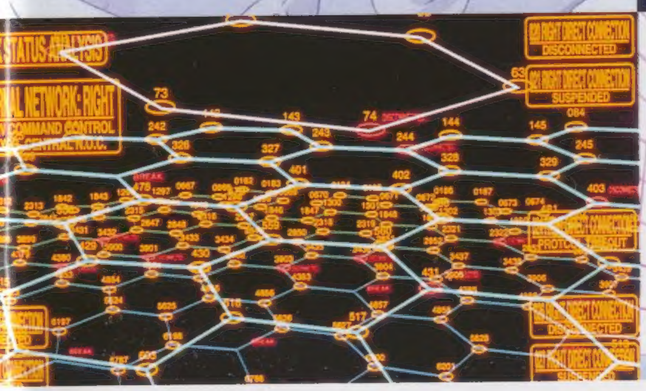
MAXIMUM

第25話 Air II

MANTRA

EMERGENCY
SIGNAL LOST
SIGNAL LOST
白銀LSS
第23警戒群
第11光学観測所 Side-B
第23警戒群
第12光学観測所
第22警戒群
第10光学観測所 Side-B
湖尻峠
MANTRA

滅びの宿命は、新生の喜び
EMERGENCY
MANTRA

最後の使徒が死んだ。その事実は、シナリオの最終段階――人類補完計画決行を意味していた。ゼーレは早速、エヴァ初号機による計画完遂を指示。然し、全てのヒトに死を与える同計画は、ゲンドウと冬月の本意ではなく、二人は反駁する。だが、彼らの背信をゼーレが認めようはずもなかった。払暁、ＭＡＧＩが悲鳴のように警報を鳴らす。各地のＭＡＧＩが、オリジナルにハッキングを仕掛けたのだ。続いてＡ－８０１の発令。ネルフの法的根拠を失わせるそれは、ゼーレの最後通牒でもある。ネルフは、リツコの復帰により辛くもハッキングを免れるものの、続く戦略自衛隊の侵攻には無力だった。熱いナイフがバターを切り取るように、ネルフは寸断されていく。使徒撃退を成したネルフも、人には脆弱であった。「どうして、そんなにエヴァが欲しいの」悲鳴のような問いが、答を得られぬまま、銃声と悲鳴の中に霧消していった……。

02
MANTRA

偽りの、再生

惣流・アスカ・ラングレーは全てを喪失していた。母親も、自信も、プライドも、生きる意義さえも……。そして、戦略自衛隊侵攻の報が、アスカを再びエヴァへと封じ込める。爆音と震動が魂ごと彼女を揺さぶり、呟きが絶叫へと変わっていく。死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬ……ママ！弐号機の胎内でアスカは気づいた。自分が母と共にあったことを。母が自分の側にいたことを。覚醒。もはや雲霞の如き敵軍も彼女の敵ではない。９機のエヴァですら彼女を止める事は出来ない。勇躍し、戦場を駆け抜ける弐号機。翔ぶ、潰す、倒す、刺す、絞める、噛る、払う、撃つ、投げる、走る、殴る、止まる、止まった……活動限界だ。動けない弐号機の上を蹂躙していく、９機のエヴァ。それはエヴァによる、エヴァの陵辱だった。

帰ってきたら続きをしましょう

人類補完計画を強行するゼーレ。碇ゲンドウの策動。そして、戦略自衛隊のネルフ侵攻……銃声と爆震の中、ミサトとシンジが駆ける。母親と息子。姉と弟。恋人同士。大人と子供。上司と部下……そんな微妙な関係の二人。銃声！　シンジを庇ったミサトの足がもつれ、二人は通路の奥へと転がり込む。涙と怒りが交錯し、剥き出しの感情をぶつけあう。嗚咽。激昂。吐露。慈愛。そして、二人の唇が重なった。触れるだけのキスから、大人のキスへ。色々な意味で、シンジにとってミサトは初めての女だった。「帰ってきたら続きをしましょう」ミサトはそう言ったが、シンジは“続き”がないことを知っていた。未だ彼女の温もりが残る手と唇が、血に染まっていたから……。

傳老和哉

「コミュニケーションの物語」としての

MANTRA

―― 『新世紀エヴァンゲリオン』もついに完結ですね。劇場版という形で結末を迎えるわけですが、いかがですか？

鶴巻 ようやく終わってくれた、というところです。本当はＴＶのままで終わらせておくのが美しかったのかなあ、とも思っているんです。正直、そのあとはちょっと余計な仕事だった気がします。普通なら映画になった事は喜ばなきゃいけないんだろうけど。

―― 時間をかけた分だけ、熟成した仕事になったのでは？

鶴巻 どうなんでしょう。確かに時間はあるんですけど、僕自身としてはＴＶシリーズをやってた頃の昂揚感はもう戻ってこないですよね。後向きの発言で申し訳ないけど。あの頃は、わが人生最高といっていいくらいテンション上がっていたから。

―― テンションが上がっていたというと。

鶴巻 最期の方はほんとにいい気分だったんですよ。第拾六話の作業を終えて、特に弐拾話以降ですね。勿論、体はボロボロで疲れてもいたけど、頭だけは冴えてるっていうか、自分が本来持ってるスペックが最大効率で発揮されてる感じだったんです。

―― 第拾六話は印象的なエピソードでしたね（注１）。『エヴァンゲリオン』のターニングポイントにもなっているし。

鶴巻 ああいう内面から描いていく方向性が出てきた最初のエピソードですから。

―― あれは、最初から、シンジの内面を描くエピソードになる予定だったんですか？

鶴巻 いえ。あの話は、第拾、拾壱、拾弐話あたりに近い、いろんな使徒が出てくるエピソードのひとつにすぎなかったんです。次第に使徒の謎が解明されてくる全体の流れの中で、使徒が人間に興味を持っているらしい事がわかるエピソードを入れておこう、という事だったんですよ。

―― なるほど。

鶴巻 シナリオの初稿では、実際にシンジと使徒が会話することになってたんです。でも、いくらなんでもパルプ雑誌の宇宙人みたいに「（喉仏をトントン叩きながら）キミノあなろぐテキナカンガエカタハマチガッテイルヨ」なんて使徒が喋り出したら興醒めだろうという事になって、それで出てきたのが実際に本編で使われた自分自身との対話というアイデアだったんです。

―― あそこで「好きな事ばかり紡いで生きていられるわけがない……」という台詞があるでしょう。あの台詞が強烈でしたよね。あれで、アニメファンの人達がグサッとくればよかったんでしょうけれど、ほとんど誰も反応しなかった（笑）。

鶴巻 ＴＶのアニメを見てるときなんてまともに台詞なんて聞いてないんでしょうね。て言うか、聞こえてても頭の中に入ってこない。僕もそうだけど。まあ、庵野秀明はそれも承知でありながら、より直接的に観ている人達にメッセージするような表現を入れ始める。それまではなんとか作品内のストーリーの範囲で見せる形式だったのが、どんどん後退していって、自分自身の内省と心情を吐露していくような表現が多くなっていく。

―― それまでは、シンジがどうなるかという事を通して、テーマを描こうとしていたのに、もっと直接的なメッセージになっていった。

鶴巻 丁度、第拾六話の頃、庵野秀明は並行して第拾四話の作業をやってたんです。第拾四話に綾波レイの詩のような台詞がでてくるでしょう（注2）。あの頃から『エヴァ』の方向性が見えてきたんでしょうね。ああいう内省的な話に向かうというね。だから、第拾六話もＡパートまでは普通の話をやっている。そういう意味では、第拾六話のＡパートとBパートの境が『エヴァンゲリオン』の表と裏の折れ目になっているのかもしれない。

―― ＴＶシリーズ後半の展開についてはどう思われました？

鶴巻 僕は嫌いじゃないですよ。スケジュールは破綻して作画枚数は落ちていくし、クオリティとして残念なところはあるけど、絶望的に追い詰められていくスタッフの緊張感は確かにフィルムに出ている。

―― なるほど。

鶴巻 制作体制がガタガタになってきた頃に「満足なモノが出来ないのなら、これ以上作る意味がない」って意見もあったけど、そうは思えなかった。「ダメになっていく過程も含めて見せていけばいいじゃないか」と。満足なモノが作れない事も含めて作品だろうと。

鶴巻和哉 ● PROFILE

監督。昭和41年２月２日生まれ。新潟県出身。アニメーターとしての代表作は『ふしぎの海のナディア』。『ナディアおまけ劇場』が初演出。第一回監督作品は『トップをねらえ！　新科学講座』。『エヴァンゲリオン』ＴＶシリーズでは、副監督として、庵野総監督の片腕的な役割を果たした。特にＳＦ設定面で活躍。各話演出・作画監督・設定補としても参加。

「１０年たって、あの当時、自分たちがヘベレケになって作ったモノを観たら、たとえ、ひどい出来であろうと悪い気はしないんじゃないかなあ」と思えたんです。

―― そうですか。

鶴巻 だから、どんな形であれ、ＴＶシリーズを最期までやれたというのは良かったと思っているんです。

―― 結局、完結編が劇場映画になって、春と夏の２回に渡って公開という形になりましたが。

鶴巻 春だけでは完結せずに、夏まで延びることがわかった時には、愕然としましたね。春の劇場で観た方々がそう思った以上に、僕自身、相当落ち込みました。「やっぱり、余計なことをやってるんではないか？」という疑念が再発しましてね。ほんとにショックだったんです。

―― 今回の『THE END OF EVANGELION』では監督という役職ですが。

鶴巻 肩書きは監督ですけど、やってる事はＴＶの各話演出と変わらないですよね。だから、第２５話部分の演出ということになります。

―― 最終話についてはノータッチですか？

鶴巻 監督としては、何もやっていません。土壇場でシネカリを手伝ったくらいです。

―― 第25話は、やられていかがでした？

鶴巻 別に劇場に掛るからといって気張らないで、ＴＶを作ってる時と同じ感じでいこうというつもりだったんです。変に気負っちゃうのもいやだなあ、と思えて。

―― 実際に肩の力を抜いてできました？

鶴巻 第壱、弐話の時のほうが、気負ってたんじゃないかな。そうはいっても大変なんですけど。

―― 特に気に入っているシーンとか、力を入れたシーンはありますか。

鶴巻 弐号機の左目に槍が刺さるところ。痛そうとか、そういう感覚的なことはなかなか表現しづらいんですけど、ここはラッシュフィルム見ただけで、十分いけると思った。こういう事は、なかなかないんじゃないですかね。

―― ところで、『エヴァンゲリオン』という作品は、基本的に庵野監督の心象風景を投影しながら作られたといわれてますよね。そうした作品に関わる上で、鶴巻さん自身は、庵野監督のやり方とか考え方に納得がいかないような事はなかったんですか？

鶴巻 僕は監督をやる人間は、そうした部分を必ず持っているべきだと思っています。そういう部分のある作品こそが面白い。だから、所謂エンターテイメントを名乗っている作品は、その意味で、僕にとってはエンターテイメントではないんです。

―― じゃあ、納得して参加していた。

鶴巻 もちろんです。ただ、だからと言って、僕がシンジの気持ちにシンクロできるかというと、そんな事はないです。シンジの気持ち＝庵野秀明の気持ちに対して、納得できるかというと、そうでもない。

―― なるほど。じゃあ、シンジの気持ちが庵野監督の気持ちである事は間違いないんですね。

鶴巻 本当のところはわからないけど、少なくとも僕はそういうつもりで作っていました。だから、シナリオ会議で「シンジが、こんな事を言うのはかっこよすぎるんじゃない？　庵野秀明はそんなにかっこよくないんじゃないか」みたいな事は、何度か言った事があります。

―― 第25話でシンジがまったく無気力になっているじゃないですか。という事は、庵野監督もああなっていたという事ですか？

鶴巻 ＴＶが終わった後の庵野秀明は、あそこまでテンションが落ちていたという事だろうと思います。

―― シンジの気持ちの流れに関しては、第弐拾四話を観た直後に、劇場版の第２５話を観ると違和感があるかもしれない。

鶴巻 気持ちの流れに関してはそうかもしれません。第２５話に関して、作り手の気持ちは第弐拾四話から１年近く経ったところからスタートしているわけです。第弐拾四話と感情的につながっているのは、あくまでＴＶの第弐拾伍話だということです。

―― 今回の劇場版は、今の庵野監督の心境に合わせて作られたという事ですか。

鶴巻 そうだと思います。ある時期、庵野秀明の中にも明らかに、もっとカタルシスのある展開にしようという試みがあったようなんです。でも、そうはならなかった。嘘はついていないと思います。

―― 嘘というのは、例えば、いきなり「愛は地球を救った」みたいなオチになるといった事ですか。

鶴巻 そうです。今回、そういう事にはなっていない。ラストについて不満はないです。僕はとても気に入っています。

―― 今回の映画のラストで、シンジの心の問題には一応の決着がついたというかたちなんですかね。

鶴巻 これは僕の個人的な考えだけど、「そういう心の問題というのは、補完されなきゃいけないものなの？」と。補完されようがされまいが、悩みがあろうがあるまいが、答えが見つかろうが見つかるまいが、人間関係はあるし、世界は進んでいく。で、人生は終わらない、と。そういうラストだと僕は思っています。本当は、ちがうのかもしれないけど。

―― 結局のところ『エヴァンゲリオン』というのは、コミュニケーションの話だったんですね。あのラストを見る限り。

鶴巻 それは、ＴＶシリーズの当初からありました。第弐話の時からかなり意識して演出していました。

―― ああ、ミサトとシンジが、マンションで互いの距離を測りながら会話するシーンがありましたね。互いに明るく楽しく付き合っているように見えるけど、シンジは「いい人なんだろうけど……」と思い、ミサトは「見透かされてるかしら」なんて思ったりする。

鶴巻 第弐話では他にも、ミサトはシンジに声をかけるけど、部屋には入ってこない、とかね。第参話でも、朝の日常っぽい会話はあるんだけど、互いに顔を合わせない。わずかに開いた襖を通してしか繋がれない、とか。シンジとレイの間も、シンジとゲンドウの間でもそうだった。互いの距離の離れた、ギクシャクしたコミュニケーションが多かったはずです。

―― なるほど、シリーズ通してテーマは同じだったという事ですか。

鶴巻 そうですね。

―― 今、『エヴァンゲリオン』を振り返ってみて、どうですか？

鶴巻 やはり、ＴＶをやってた頃の空気が好きでしたね。制作してる間に反応が返ってくるっていうのは、ＴＶ以外ないんです。「今日は、客のノリが悪いな」とか、「お、今日は盛り上がってるな」とか。そういう反応が、その時、制作してる話数にフィードバックされていく。そういう意味でも、ライブ感覚だった。パソコン通信

での愚にもつかない批判とか、サブカル誌での褒め殺しに近い褒められ方とか、庵野秀明本人はすごく気分悪かったろうけど、『エヴァンゲリオン』というのは、そういった誤解されていくところも含めて『コミュニケーションの物語』だったわけだから。

―― 今では、居酒屋でサラリーマンが『エヴァ』の謎について議論していますからね（笑）。

鶴巻 （笑）。例えばね、庵野秀明は「アニメファンは内側向いててイカン」ていうじゃないですか。「もっと、外へ出て行かないと」って。それで言えば、アニメファンじゃない人が観てくれるというのは、嬉しい事のはずなんですよね。でも、結局のところ『エヴァンゲリオン』＋『エヴァンゲリオン』に関する庵野秀明のコメントっていうのは、彼自身を含めた、もちろん僕も含めたアニメファンに向けてのメッセージなんです。実はアニメファン以外の人が観てもしょうがない。普通に生活できて、普通にコミュニケーションとれてる人が観ても仕方ない作品なんですよ。

―― でも、今、『エヴァンゲリオン』を観ている人は、実はみんな、アニメファン的なところをかかえているんじゃないですか？　世の中とうまくやっていけない焦燥感みたいなものは誰にでもあるものなのかもしれませんよ。

鶴巻 ああ、そうなのかもしれませんね。確かにアニメファンという小さな括りで見ると、庵野秀明の言う通りなんだけど、一歩退いて日本人という括りで見ても、同じ様な問題があるという事なのかもしれませんね。別に、アニメファンに特化した問題じゃないんだ。

―― 最後に、何かメッセージをお願いします。

鶴巻 あんまり後に引かないで、次の楽しい事を見つけてください。

―― それは、いつまでも『エヴァンゲリオン』にこだわらずにという事ですか？

鶴巻 ええ。スパッと終わったほうが美しいでしょ。

【注１】第拾六話「死に至る病、そして」。Ａパートは第12の使徒とのアクション、Ｂパートは使徒の内部に閉じこめられてしまったシンジの、内宇宙での葛藤を描く。鶴巻氏は、この話で絵コンテ・演出・設定補を担当

【注２】第拾四話「ゼーレ、魂の座」。Ｂパートの最初で、レイの内面が詩的なモノローグとして語られた

用語集

構成：スタジオ雄

【A－801】

第25話「Air」で、第2新東京市の日本国政府より発令された措置。「特務機関ネルフの特例による法的保護の破棄、及び指揮権の日本国政府への移譲」を意味する。第8の使徒捕獲時には「A－17」が発令されている事から、Aに続くナンバーは、ネルフに関連する緊急措置と思われる。

【A.T.フィールド】

ABSOLUTE TERROR FIELDの略。使徒及びEVAが展開する絶対領域、物理的障壁。絶大な防御力を誇り、全ての兵器はその威力を大幅に減殺される。EVAが使徒に対抗し得る唯一の兵器と目されるのは、このA.T.フィールドを中和する能力による所が大きい。然し、実際には同フィールドは使徒、EVAのみならず、ヒトも持つものであった。ヒトはA.T.フィールドによって、それぞれを分かち、またそれぞれを形作っていたのだ。渚カヲルは、A.T.フィールドを「誰もが持っている心の壁」であると説明している。

【BC兵器】

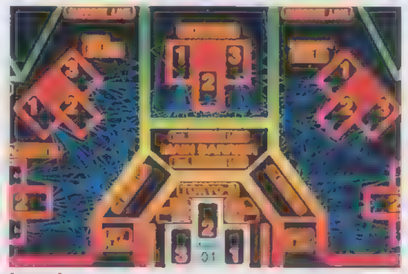
生物化学兵器。毒ガス、細菌兵器等の事を指す。B＝Biological、C＝Chemicalの頭文字をとって、こう呼ばれる。青葉シゲルは第25話「Air」で、戦略自衛隊がBC兵器を使う事を危惧していた。

【L.C.L】

エントリープラク内を満たしている液体。粘着質で、血の様な臭気を持つ。電荷する事でその分子配列を変化させ、パイロットとEVAを精神的に接続、酸素供給、精神的物理的保護等の機能を発現させる。リリスが安置されているターミナルドグマ最下層に満ちているのも、同じくL.C.Lである。これがLink Connected Liquidの略称である等、種々の解釈も横行したが、実際には“生命のスープ”そのものであったようだ。

【MAGI】

故赤木ナオコ博士が基礎理論を完成、システムアップをその娘――赤木リツコ博士が行ったスーパーコンピュータ。特務機関ネルフの頭脳とも云える存在で、多くの懸案、計画等を策定、検討、解決する。MAGIはMELCHIOR・1（メルキオール）、BALTHASAR・2（バルタザール）、CASPER・3（カスパー）という三台三系統のコンピュータで構成されており、最終的な決定は3台の合議で行われる。同コンピュータは、人間の持つジレンマをシステム的に再現しただけでなく、人間の思考パターンを移植した人格移植OSであるという点でも人間に近似している。移植された思考パターンは開発者である赤木ナオコ博士のものであり、MELCHIOR・1、BALTHASAR・2、CASPER・3のそれぞれに、科学者としての、母としての、女としての彼女が移植されているという。因みに、MAGIの名は『新約聖書』で、イエス誕生を予言した東方の三賢者の事に由来。MELCHIOR、BALTHASAR、CASPERの名前も、それぞれの賢者の名前から採られている。第25話「Air」冒頭では、松代のマギ2号を始め、独国、米国、中国等5台のMAGIタイプが、ネルフ本部のオリジナルMAGIに対してハッキングを企図した。



【MAGI】

【N²兵器】

国連軍、戦略自衛隊が保有する極大の破壊力を持つ兵器。その種類としてはN²地雷、N²爆雷、N²航空爆雷、N²爆弾等が存在する。第25話で、BC兵器が使用される事を危惧する青葉シゲルに、日向マコトはN²兵器の存在も同様に危険であると答えた。

【S²機関】

葛城博士が提唱したスーパーソルノイド理論によって説明される動力発生システム。同システムを搭載する事で、EVAの活動時間は無限に増大する。使徒は皆このS²機関を所有しており、EVA初号機は第14の使徒を捕食する事で同機関を獲得した。尚、5号機以降のEVAシリーズには全機搭載されており、それ故、アンビリカルケーブルを必要としない。

【青葉シゲル】

ネルフ本部中央作戦室付オペレーター、階級は二尉。通信、情報分析を担当する。趣味はギター。5月5日生まれ。A型。

【赤木リツコ】

ネルフ本部技術開発部技術局一課所属の科学者。E計画責任者で、MAGIの基本システムを構築した赤木ナオコ博士の娘でもある。常に白衣を纏い、仕事中は珈琲と煙草を大量に消費する。葛城ミサトとは学生時代からの友人である。母親同様、碇ゲンドウと密通していたが、補完計画の終盤になって造反。彼に対する復讐の為、綾波レイのコピーを全て破壊した。その為、ネルフ本部内に拘留されていたが、MAGIの自律防御が必要となり、拘留を解かれた。11月21日生まれ。B型。30歳。

【赤き土の禊】

第26話で、ジオフロントをリリスの卵――「黒き月」に戻す際にゼーレのメンバーが云った言葉。禊とは水浴して身体を清める宗教儀礼、転じて対象を浄化、聖化する手段を云う。人類の始祖アダムの語源を赤もしくは土とする説が在るが、赤き土との関連は不明である。

【アダム】

第1の使徒。南極で発見された光の巨人。アダムが、ネルフ本部地下に幽閉中という情報はダミーであり、実際には地下の巨人はリリスだった。本物のアダムは加持が独国から移送した胎児状の物体で、これはヒトがS²理論を使って覚醒したアダムを卵の状態に還元した結果である。セカンドインパクトは、その過程で発生したものだったようだ。尚、『旧約聖書』創世記では、アダムは神の形を象って作られた最初の人間として記述されており、その語源は「土」「赤」「作る」等の諸説がある。

【綾波レイ】

ファーストチルドレン。EVA零号機専属パイロットで、感情が欠落したかの様な少女。彼女の身体はEVAの中に取り残された碇ユイをサルベージしたもので、ターミナルドグマには彼女のコピーが大量に用意されていた。その為、たとえ死亡しても別のレイが代替されるようになっており、現在のレイは3人目に当たる。1人目は赤木ナオコ博士により殺害されており、2人目は第16の使徒戦で戦死している。3人のレイはそれぞれ性格が異なっているが、これは環境によるもの。魂は同一である。そして、その魂は、どうやらリリスのものであったようだ。補完計画の最終段階でゲンドウに背信し、自らの判断でリリスに帰還、未来をその息子――碇シンジに委ねた。生年月日不明。

【綾波レイ】

MANTRA

【アンビリカルケーブル（電源ケーブル）】

兵器としては活動時間が短いＥＶＡが、外部から電力供給を受ける為のケーブル。ＥＶＡのウィークポイントとも云える。その為、ネルフ本部に侵攻した戦略自衛隊員はアンビリカルケーブル――電源ケーブルと呼んでいたが――を狙うよう指示していた。因みに、UMBILLICAL　CABLEとは、臍の緒の意で、赤ん坊が臍の緒から栄養を得るように、ＥＶＡはアンビリカルケーブルで電力を得るのである。

【碇シンジ】

サードチルドレン。ＥＶＡ初号機専属パイロット。幼くして母を失い、14歳まで父の知人の下で過ごす。第３の使徒襲来と時を同じくして、父――特務機関ネルフ司令碇ゲンドウに呼ばれ、ＥＶＡのパイロットとなった。以後、第３新東京市に留まるが、長い間別居を続けていた父との溝は深く、上司にあたる葛城ミサトの家に同居する事となる。内向的な性格で、常に他人の目を気にしている。自己表現や他人とのコミュニケーションを不得手としており、それ故か、たびたび逃避、命令違反を繰り返した。戦略自衛隊のネルフ侵攻時も自己喪失状態に陥っており、反撃遅延の原因ともなった。６月６日生まれ。A型。14歳。

【碇シンジ】

【碇ゲンドウ】

特務機関ネルフ司令。旧姓は六分儀。学生時代より交際していた碇ユイと結婚し、姓を改めた。Ｅ計画推進の隠れ蓑であった人工進化研究所の所長も務め、ユイの死後は「アダム計画」「人類補完計画」に奔走。ゼーレの後援を得て、ＥＶＡ建造等を実現した。然し、ゼーレとの蜜月は最後の使徒が倒される迄で、その後は目的の違いが顕在化、武力衝突に発展した。４月29日生まれ。A型。

【碇ユイ】

碇ゲンドウの妻。元々はゼーレの人間であったらしい。京都大学時代から交際していたゲンドウ（当時、六分儀ゲンドウ）と結婚、シンジを産む。結婚後も、夫ゲンドウと共にゲヒルンで活動、Ｅ計画の実現に尽力したが、実験中の事故で2004年に死亡。然し、その魂はＥＶＡ初号機内部に残存しており、また、同事故は彼女の意思でもあったようだ。享年27歳。

【伊吹マヤ】

二尉。ネルフ本部技術局一課所属。ＥＶＡパイロットのシンクロ率のモニタ等、ＥＶＡに関するデータの収集分析を担当。直属の上司にあたる赤木リツコ博士を尊敬している。性格的には、潔癖症と云われる程、生真面目である様だ。７月11日生まれ。A型。24歳。

【裏死海文書】

ゼーレが行動の指針としているらしい書物。ゼーレはこの『裏死海文書』の記述に従い、ＥＶＡを建造し、使徒との戦いを展開していた。同文書には、侵攻してくる使徒等についても記述されていたようだ。尚、現実に存在する『死海文書』は1947年にイスラエルの湖「死海」付近の洞穴で発掘されている。その内容は『旧約聖書』とその「外典」であった。

【エントリープラグ】

ＥＶＡの操縦者が乗り込む、カプセル状のコクピット。ＥＶＡは、このプラグを頸椎部に挿入する事で起動される（擬似エントリープラグ――ダミープラグでも同様）。プラグは緊急時に脱出カプセルともなる為、パラシュートや脱出用ロケットが装備されている。

【エヴァンゲリオン】

正式名称は汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン。人類補完計画遂行の為、14年の歳月と天文学的な経費をかけて建造された。A.T.フィールドを展開、中和する能力を持ち、使徒に対抗し得る人類唯一の戦力である。電力により稼働するが、単体での活動時間は５分程度に限られる為、通常はアンビリカルケーブルより電力供給を受けつつ行動する（５号機以降はS^2機関を搭載している為、ケーブルを必要としない）。元来、ＥＶＡは魂を持たない。そのため、初号機には碇ユイの魂が宿らせてある。ＥＶＡの名前の由来は『旧約聖書』におけるアダムの妻エバ（EVA）と、英語の福音（Evangel）からと思われる。

【エヴァンゲリオン量産機（エヴァシリーズ）】

各ネルフ支部で建造が進められていたＥＶＡで、５号機から１３号機までの九機が建造された。既存のＥＶＡと異なり、その指揮権はネルフではなくゼーレにある。S^2機関を搭載している為、活動時間は無限。故にアンビリカルケーブルを必要としない。背中に格納可能な翼を持ち、飛行も可能である。人類補完計画遂行の為、ゼーレが対ネルフ戦に投入、集団で弐号機を破壊した。

【加持リョウジ】

特務機関ネルフ特殊監査部所属。然し、同時に日本政府内務省調査部にも所属しており、ゼーレの命でネルフの内偵を進めていた。ネルフ独国支部からセカンドチルドレン、弐号機と共に来日、そのまま出向の辞令を受け本部勤務となった。葛城ミサトとは学生時代の恋人で、一度は別れたものの再び縁りを戻した。自身の好奇心が仇となり射殺されるも、自らの調査結果を彼女に残した。６月17日生まれ。A型。

【葛城ミサト】

階級は三佐。特務機関ネルフ本部戦術作戦部作戦局第一課所属。ＥＶＡの作戦指揮を担当する作戦本部長でもある。セカンドインパクト時に、嫌っていた父親に救われ、父を失った事が精神的外傷となり、長く失語症の時期があった。十字のペンダントはその父の形見でもある。ネルフ内部に在りながらも、碇司令らの行動には常に疑念を抱いていた。恋人・加持リョウジの残した情報を元に、独自の行動で真実に迫ろうとする。12月８日生まれ。A型。29歳。

【葛城ミサト】

【ガフの部屋】

第２６話の冬月の台詞によればガフの部屋が開く事は、世界の始まりと、終局の扉が開く事と同義であるようだ。この扉が開いた事によって、地表はＬ.C.Ｌと化し、人々も個体生命の形を維持できずＬ.C.Ｌへと還元された。第弐拾参話でも、リツコがガフの部屋について語っていた。

【キール・ローレンツ】

人類補完委員会の議長で、ゼーレの指導者的立場にある人物。その身体は、脊髄から下が全て機械化されていた。特務機関ネルフの直接占拠を指示し、ＥＶＡ初号機による補完を企図した。

【黒き月】

生命の源たるリリスの卵の事を、ゼーレはこう呼ぶ。第２６話では人類補完計画の発動により、ジオフロントとなっていた第３新東京市下の地下空洞そのものが「黒き月」であった事が判明した。

【群体】

葛城ミサトは、補完計画から見た人類を「出来損ないの群体」と云った。群体とは、分裂または出芽によって生じた新個体が互いに連結する事。群体を構成する各個体は、それぞれ独立生活能力を持つ。

【サードインパクト】

ファースト（ジャイアント）インパクト、セカンドインパクトに続いて予想される大規模災厄。対外的には、第３新東京市地下のアダムが使徒と接触する事により発生し、ＥＶＡ及びネルフはそれを防ぐ為の存在と説明されていた。だが、実際にはサードインパクトを発生させる事こそが人類補完計画の目的であったようだ。

【サードチルドレン】

マルドゥック機関が選定した３番目の適格者――碇シンジの事。0.000000001％という低い起動確率からオーナインシステムと揶揄された初号機を訓練なしに起動させ、関係者を驚かせた。以後、ＥＶＡ初号機の専属パイロットとして第３新東京市に居住。他チルドレンに比して高いシンクロ率を誇り、使徒要撃作戦ではよく中核を成した。

【ジオフロント】

第３新東京市地下に広がる大深度地下都市。既存の球形空間（但し、その大半は土砂で埋まっている）を利用して建設されたものだが、第２５話「Ａｉｒ」の戦略自衛隊の攻撃により天井部分はほぼ全壊、ジオフロントは剥き出し状態となってしまった。中央にはネルフ本部が位置し、その周囲には森林、地底湖等が広がる。天井部から、ぶら下がるように伸びている複数の高層ビル（天井都市）は、第３新東京市上に建つビルと同一のもので、使徒来襲時に地下へと格納される。補完計画の発動により、同空間はリリスの卵――「黒き月」そのものである事が判明した。

【使徒】

リリスと呼ばれる生命体の源から発生した存在。巨大な立方体から、細菌サイズの微小な使徒、実体を持たない「影」使徒まで、様々な大きさと形をとる。第２６話の冬月の言葉を借りるなら、「知恵の実」を得たヒトに対して、使徒とは「生命の実」を得た存在であるらしい。つまり「使徒」とは、ヒトと同等の可能性をもった別の形の人類であり、ヒトとは18番目の使徒であったのだ。

【初号機】

EVA－01　TEST　TYPE。実戦に投入された最初のＥＶＡ。零号機に続いて、ネルフ本部で建造された。数々の使徒要撃作戦に参加し高い貢献を示したが、暴走やエントリープラグ未挿入時の稼動、活動限界を越えた行動等、計算外の事象も多く見られる。第14の使徒戦では使徒を捕食、直接S^2機関を獲得してもいる。カラーリングはパープル。専属パイロットはサードチルドレン――碇シンジ。同機には彼の母親――碇ユイの魂が宿らせてあったようだ。また、初号機の肉体はリリスを基に作られていたらしい。その為、ロンギヌスの槍が失われた状況では、リリスに代わり唯一人類補完の依代となり得る存在となった。

【初号機】

【人類補完計画】

出来損ないの群体として行き詰まった人類を、完全な単体生物へと人工進化させる計画。ゼーレ主導の下、特務機関ネルフが実行機関となり推進していた。尤も、ゼーレの思惑と、特務機関ネルフ――というより、ゲンドウと冬月の目的は異なっていたようだ。ＥＶＡも兵器としてではなく、実際には同計画の実現を企図して建造されたもの。具体的には、サードインパクトを人為的に発生させる事で全ての人類を消去、一旦ヒトの形を捨て、新たな段階に人類を進化させる計画であったようだ。

【聖痕】

第２６話で、ＥＶＡ初号機の両手に出現した血の痕を指してゼーレのメンバーが云った言葉。英語ではstigmaといい、もとは牛や奴隷に焼きつけられた刻印を指した。カトリックの世界では、磔刑のキリストが受けたのと同じ傷（両手、両足、脇腹、額）が、外的原因を伴う事なく現われる事を云う。

【生命の樹】

人類補完計画の発動により、初号機は天に根を広げ、地に枝を伸した樹の様な姿になった。冬月はこれについて「ＥＶＡ初号機は生命の樹へと還元された」と語っている。枝と根が逆転した生命の樹は、インドの聖典やカバラに見出され、それは「さかさまの樹」と呼ばれる。

用語集

【生命の実】

第26話で、冬月が使徒が持つものとして言及。『旧約聖書』創世記には、エデンの園の中央には「知恵の木」と共に「生命の木」があったと記されている。ヒトは神の命に背き「知恵の実」を食べたが、もし「生命の実」を食べていたらどうなったのだろうか？その答が使徒という事なのだろうか。尚、同創世記は、命の木の実を食べると永久に生きられるとも伝えている。

【ゼーレ】

セカンドインパクト以前より存在していた秘密組織。セカンドインパクト及び使徒の存在を隠蔽するなど、その実力は国家、国連を凌ぐものがある。同災厄以後は、国連を隠れ蓑に、人類補完委員会、特務機関ネルフを設立、ＥＶＡシリーズの建造を成した。彼らの人類補完計画は『裏死海文書』の記述に従って進められており、その目的は人類を次の段階へと進化させる事。だが、ロンギヌスの槍が失われ、更に特務機関ネルフ司令碇ゲンドウの造反が重なった事で、計画は最終段階で修正を余儀なくされた。因みに、ゼーレ（＝Seele）は独語で魂の意味。ゲヒルン（＝Gehirn）やネルフ（＝Nerv）等、ゼーレに関連する組織は皆独語を語源としているが、彼らは独国に起源を持つのだろうか。

【ゼーレの紋章】

逆三角形に七つの目を配した紋章。リリスの顔を覆う仮面にも同じ紋様が描かれているが、七つの目を持つと云われる『旧約聖書』の絶対神ヤハウェとの関係は不明。

【セカンドインパクト】

40億年前の地球と小惑星の激突（＝ジャイアントインパクト）以来の巨大な災厄である事から、こう呼ばれる。洪水、噴火、地軸変動等の環境激変と、その後に起きた世界規模の内戦により世界人口の半数が死に至った。一般には、南極大陸マーカム山に落下した大質量の隕石が原因と説明されたが、実際には人為的なもの――ゼーレとゲンドウらが、他の使徒の覚醒以前に第１の使徒アダムを卵に還元しようとした為に発生したものであったようだ。

【セカンドチルドレン】

綾波レイに続いてマルドゥック機関が選定した適格者――惣流・アスカ・ラングレーの事。ネルフの独国支部で訓練を受け、ＥＶＡ弐号機の専属パイロットとして日本に配属された。シンクロ率の低下から自信を喪失し、一時行方不明となっていたが、特務機関ネルフにより捕捉。第25話「Ａｉｒ」で、戦略自衛隊がネルフ侵攻した時には、未だ療養中であった。

【セフィロトの樹】

カバラ（『トーラー』の秘教的解釈学を中核としたユダヤ密教）の象徴的な図版で、精神界の三次元的イメージの実体を図形的に表現したもの。碇ゲンドウの執務室にも同様のものが描かれていた。図版は10個の球体と22の経で構成されており、人間にとって到達可能な最高度の精神までの道筋を示す。他にも、瞑想の階梯図として、認識に至る地図として、人類の予定された歴史等、様々に読み解く事ができると云われる。第26話「まごころを、君に」では、エヴァシリーズによって巨大なセフィロトの樹が空中に描かれた。

【蝉の声】

エヴァンゲリオンの世界では、セカンドインパクトの影響により気候・環境が激変、日本は四季を失い、通年夏の気候となった。劇中、いつでも蝉の声が聞こえるのは、その為である。

【戦略自衛隊】

日本国防省直属の軍事組織。2003年の南沙諸島における中国とベトナムの軍事衝突を機に、固有の軍事力を持たない日本政府（自衛隊は陸海空全軍が国連軍に編入されている）が編成した。英文表記はＪＳＳＤＦ「JAPAN STRATEGY SELF DEFENSE FORCE」。戦自と略称される事も多い。第25話「Ａｉｒ」では、日本政府の指示により特務機関ネルフの直接占拠を企図、約一個師団を投入した。

【戦略自衛隊】

【セントラルドグマ】

ネルフ本部直下に広がる巨大な地下区域。その最下層にはＬ.Ｃ.Ｌの海と、赤い十字架に磔にされたリリスが存在する。因みに「セントラルドグマ」は生物学用語で、反転する事のないＤＮＡ→ＲＮＡ→蛋白質という情報伝達の流れの事を云う。

【惣流・アスカ・ラングレー】

セカンドチルドレン。ＥＶＡ弐号機の専属パイロット。独国人と日本人のクォーターだが、国籍は米国。14歳にして大学を卒業する程に高い知能を持ち、実戦投入初期には、かのサードチルドレン以上のシンクロ率を誇っていた。母親の自殺が、彼女を過度に攻撃的な性格に育ててしまい、己の優秀さを外部に喧伝する事でバランスを保っている所がある。12月４日生まれ。Ｏ型。14歳。

【惣流・アスカ・ラングレー】

【惣流・キョウコ・ツェペリン】

惣流・アスカ・ラングレーの実の母親。実験中の事故により精神破壊に陥る。以後、空想世界の住人となり、程なく自殺。その魂は、ＥＶＡ弐号機のコアに使用されているようだ。

【ダミープラグ】

操縦者無しにＥＶＡを起動・運用する為に開発された擬似エントリープラグ。チルドレンのパーソナルを移植してあるが、魂のデジタル化は不可能な為、思考パターンを模倣する存在に過ぎない。ネルフ側が用意したダミープラグは、ファーストチルドレン＝綾波レイのパーソナルが移植されていた。一方、ゼーレのダミープラグには、フィフスチルドレン＝渚カヲルのパーソナルが使われていたようだ。

【第2新東京市】

旧長野県に建設された旧東京に変わる日本国の新首都。2001年に建設着手、2003年には首都として機能を果たすようになった。2005年に承認された第二次遷都計画によれば、建設中の第３新東京市への遷都が予定されている。因みに、旧東京はセカンドインパクトとその一週間後に投下された新型爆弾により壊滅。第２新東京市の建設も日本臨時政府による決定だった。第25話「Ａｉｒ」で日向マコトが「第２東京」と云っているのは、この第２新東京市及びそこに存在する日本政府を意味している。

【第3新東京市】

一般には第２新東京市に代わる新しい首都と喧伝されているが、実際は使徒来襲を想定して建造された使徒迎撃用要塞都市。尤も要撃する戦力はＥＶＡのみであり、同都市は補助機能を主としている。ＥＶＡの排出口、電源供給、武器弾薬の補給、支援火器を内蔵したビルを模した支援設備――兵装ビルが都市中央に林立、周辺にも多くの迎撃兵器が配備されている。都市地下には広大なジオフロントが広がり、特務機関ネルフ本部はその中央に位置している。第２５話で戦略自衛隊の攻撃を受け、それに続くＥＶＡシリーズの投入で、同市の戦力は初号機を除いて壊滅した。

【単体】

人類補完計画の目的は、人類を「完全な単体としての生物」へと人工進化させる事であった。この単体とは、一つの個体で完結した生命体の事で、複数固体によって形成される生命体――群体と区別して使われる。

【知恵の実】

ヒトが持つ「もの」。この知恵の所産が、ゲンドウが「ヒトの力」と誇り、冬月が「セカンドインパクトを引き起こした」と揶揄した「科学」なのだろう。ＥＶＡも人類補完計画も、この知恵の産物という事になる。『旧約聖書』創世記によれば、エデンの園の中央には、命の木と並び、善悪を知る木――知恵の木が在ったと云う。ヒトが神の命に背き、この実を食べた為、神はヒトをエデンの園から追放し、様々な不自由を与えた。果たして、ヒトは知恵と引き換えに楽園を追放された存在なのだろうか？

【チルドレン】

人類補完委員会直属の諮問機関マルドゥック機関（実質はネルフそのものであったが）が選出した、ＥＶＡに搭乗可能な人間。選出された順に従い、ファースト、セカンド、サードと呼称される。共通項は、母親のいない14歳の少年少女である事。因みに、第３新東京市立第壱中学校の２－Ａクラスには、チルドレンの候補者達が集められていた。

【通過儀礼】

人が社会内での身分の変化、新しい役割の獲得をするにあたって行われる儀礼の事。個人の社会的変化を周囲に喧伝する事と、それに伴う平安を祈願する意味を持つ。ゼーレのメンバーは第２５話「Ａｉｒ」で、人類補完計画を「閉塞した人類が再生する為の通過儀礼」と評した。

【デストルドー】

第２６話で初号機の状態をチェックしていた日向は、パイロット　碇シンジのデストルドーが形而下化するのを確認している。デストルドーとは、ウェイス（E.Weiss）が提唱した自己破壊衝動的エネルギーで、リビドーの対義語的な意味を持つ。モルティドー――ウェイスの師フェダーン（P.Federn）の提唱した「死の本能」のエネルギー――とは異なる。

【特務機関ネルフ】

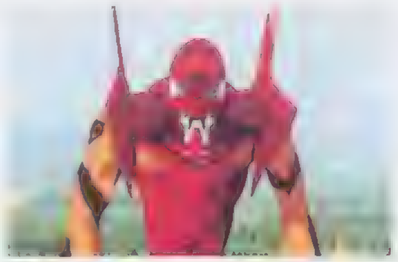
人類補完計画の推進を目指す超法規組織。2010年、同計画の調査機関であったゲヒルンを全面移管する形で組織された。本部は第３新東京市。独国、米国等に支部を持つ国際組織でもある。対外的には国連直轄の組織となっているが、実際には国連の影響力は皆無。ゼーレの指揮下にある。汎用人型決戦兵器エヴァンゲリオンを複数保有しており、使徒に対抗しうる唯一の戦力ともなっている。然し、第２５話「Ａｉｒ」では戦略自衛隊の攻撃を受け、対人戦闘能力の低さを露呈させた。

【渚カヲル】

ゼーレよってネルフに送り込まれたフィフスチルドレン。だが、その正体は第17の使徒であった。おそらく、卵の状態でゼーレによって捕縛された使徒であったのだろう。他の使徒とは違い、かなり人間に近い心を持つ。書類上の生年月日は西暦2000年９月13日。ヒトとしてサードチルドレン――碇シンジと接触し、彼に好意を抱かせるが、最後は彼の乗るＥＶＡ初号機により扼殺された。「生と死は等価値」であり「未来を与えられる生命体は一つしか選ばれない」と語るが。

【弐号機】

EVA-02 PRODUCTION MODEL。実戦を想定して建造された世界初のＥＶＡ。設計と部品製造を日本で、最終組立と起動実験を独国で行った。日本移送中に突発した第６の使徒戦で実戦を経験、以後も第３新東京市防衛に投入され使徒要撃の任に当たった。カラーリングはレッド。専属パイロットはセカンドチルドレン――惣流・アスカ・ラングレー。同機には、彼女の母親――惣流・キョウコ・ツェペリンの魂が宿らせてあったようだ。



【弐号機】

【ネルフのマーク】

特務機関ネルフは、組織名、図版、文言の３つから成り立つマークを持つ。組織名は「NERV」の４文字。文言は「God is in his heaven. All right with the world（主は天にいまし、全て世は事もなし）」――は19世紀の詩人ロバート・ブラウニング（Robert Browning）の『Pippa Passes』の一節。そして、図版は二分割された無花果。云うまでもなく無花果とは、アダムとイブが身に纏った罪の象徴であり、知恵の実を食したヒトを想起させるものである。

【方舟】

四角い形の船。『旧約聖書』出エジプト記によれば、神の啓示を受けたノアは、巨大な方舟に動物達を一番いずつ乗せて、世界規模の洪水から生物を救ったという。第２６話で冬月が云う「サードインパクトの無からヒトを救う方舟となるか」という科白は、この伝承を踏まえてのもの。

【発令所】

ネルフ本部中央作戦室内にある、軍用艦の艦橋を想起させる司令室。作戦時には、司令、副司令、作戦部長ら７人の中枢スタッフが集結し、全ての指示は同所から出される。ネルフ本部内には、同型の発令所が二つ以上あるが、第一は第14の使徒侵攻により破壊された為、現在は第二発令所が使用されている。尚、発令所下の３つの副発令所にはオリジナルのMAGIシステムが設えられており、侵攻してきた戦自が攻略を躊躇する原因となった。

【日向マコト】

階級は二尉。ネルフ中央作戦司令部作戦局第一課所属。葛城作戦本部長の作戦立案補佐、戦況分析などを担当する。上司である葛城ミサトに好意を抱いており、彼女の目的に手を貸し、情報収拾する事も屡々であった。２月13日生まれ。Ｂ型。

【ファーストチルドレン】

マルドゥック機関が選定した最初の適格者――綾波レイの事。ＥＶＡの起動試験等、Ｅ計画関連の実験は、全て彼女を被験者として行われた。ＥＶＡ零号機の専属パイロットとして実戦に参加、数々の使徒要撃作戦を遂行した。

【冬月コウゾウ】

特務機関ネルフ副司令。セカンドインパクト以前は京都大学で形而上生物学の教鞭を執っていた。碇ユイ、六分儀ゲンドウと知りあったのも同所。セカンドインパクト直後はゲンドウと対立していたが、人工進化研究所での会見後、一転して協力関係を結ぶ。碇ユイに少なからず好意を抱いていたようだ。４月９日生まれ、AB型。

【プラグスーツ】

ＥＶＡのパイロットが着用する専用服。シンクロ率上昇、身体の防御などに効果がある。同スーツは足先から首までの一体成形となっており、ウェットスーツ等に近い構造を持つ。着用直後はだぶついているが、手首部分にあるスイッチで身体に密着する。

【プログレッシブ・ナイフ】

高振動粒子で形成された刃により、接触する対象を分子レベルで切断する近接戦闘武器。ＥＶＡの標準装備の一つで、通常は肩部分に格納されている。弐号機には、カッター状の新型――刃が破損しても、後ろの刃を押し出す事で、再度使用が可能となる――が採用された。プログ・ナイフと略称される事も多い。

【フリゲート艦】

ジオフロント内の地底湖に待機していた軍用艦。駆逐艦に準ずる高速力と航洋性を持ち、対潜・対空・海外警備等に用いられる。船籍はネルフで、舷側には「NERV」の文字がある。第２５話「Ａｉｒ」で、弐号機と戦自の戦闘によって破壊された。

【ベークライト】

フェノール樹脂の総称。熱、電気の絶縁に使われる。実験中に暴走した零号機の停止措置、アダム運搬時等に使用されたベークライトは、熱硬化性樹脂の一種で超速乾性のコンクリートの様な性質を持つ。同樹脂に包まれた対象の物理的運動を封じ込める事が可能な為、第２５話「Ａｉｒ」では、戦略自衛隊のネルフ本部侵入を防ぐ目的にも使用された。一方、戦自側も、同話で、サードチルドレンと初号機の物理的接触を断つ為、ベークライトを使用している。

【依代】

神霊のよりつくもの、もしくは神霊の出現を示す媒体となるもの。第２６話で、ゼーレが初号機を使って生命の樹を現出させようとした事を、冬月はこう評した。

【リリス】

ネルフ本部深奥で、赤い十字架に磔にされていた巨人。顔にはゼーレの紋章が描かれた仮面が被せられ、手は十字架に杭で打ち付けられていた。ロンギヌスの槍を刺された状態では下半身が失われていたが、槍を抜いた途端に下半身が生み出された。人類補完計画は当初、このリリスを使う予定だったようだが、槍が失われた事によりゼーレは計画を変更、初号機による補完を企図した。この時、キール・ローレンツが「リリスの分身」と云っている通り、ＥＶＡ初号機はリリスをコピーしたものであったらしい。因みに、ラビの説教文書には、リリス（リリト）はアダムの最初の妻と記述されており、アダムとリリスの間には悪魔、精霊が生まれたとも伝えられている。

【リリス】

【リリン】

渚カヲルが人類を指して云った名称。伝承によれば、リリン（リル＝インとも云う）とは、アダムが最初の妻リリスとの間に儲けた子供である。その後、彼女は新生児を襲ったり、睡眠中の男性を誘惑し夢精させる悪魔となったという。

【ロンギヌスの槍】

A.T.フィールドをも貫く巨大な螺旋状の槍。その先端は二股に分かれているが、投擲時は一つに収束して対象を貫く。第15の使徒戦で初めて使用され、衛星軌道上の使徒を撃破するが、槍自体は月へと到達し回収不能となる。だが、武器としての使用は、この槍の本義的な用法ではなく、リリスによる補完計画の為に必要なものであったようだ。尚、ロンギヌスとは、十字架に磔刑となったイエスを槍で突き刺した兵士の名。ローマの聖アウグスティヌス教会に遺物が保存されている。

【ロンギヌスの槍(コピー)】

量産型ＥＶＡが持つ打突兵器。ロンギヌスの槍を模して作られており、変形、伸縮が可能。A.T.フィールドを貫く際は、その先端が二股に分かれ、捻り入れるように侵入してくる。第２５話では、弐号機のA.T.フィールドを貫き、奪戦する同機に止めを刺した。リリスによる補完は行えないものの、武器としては、オリジナルに近い能力を持っていたようだ。

声ノ出演

緒方恵美 碇シンジ役

PROFILE●6月6日生まれ。青二プロダクション所属。血液型B型。『幽☆遊☆白書』の蔵馬と『美少女戦士セーラームーンS』の天王はるかで、多くの女性ファンの心を射止めた。劇場映画『タイム・リープ』では自身の作詞で同題の主題歌を披露している

初めて彼と会ったのは。3年前の秋。
夏服の学生服をきちんと身に纏い、さっぱりとした短髪で、どこにでもいそうな…今窓を開けたら、目の前の歩道を友達と談笑しながら通っていそうな、そんな雰囲気で。
本当にこの子が、地球の平和を守れるの（ってな感じの作品なんだろうと最初は思っていた）？
そう、思いました

シンジは普通の男の子。
どこにでもいる、普通の男の子。
それが普通でないシチュエーションの中に投じられる時……どういう風に動くんだろう。
心が、体が、どういう風に震えるんだろう。
いつもの役作りの時のように探ろうとしかけて、やめました。
そして決めました。
物語の中を、泳ごうと。
ゆっくりと漂い、時には逆らい、与えられる流れの中に、いようと。
生まれたままの姿で。
なんにも身に、纏わないで。
私の、ままで。

台本を手にした時、時々感じる嫌悪感。
それが他でもない、自分自身の部分に対する嫌悪感だと気づいた時の、衝撃。
心のカサブタが次々剥がされていく、痛み。
壊れていく、恐怖。
拒絶。絶望。快感。恍惚。嫌悪。……。
その全てが、リアルでした。
ライヴでした。
衣服を脱ぐより恥ずかしい、ストリップ・ショー。
それはまぎれもなく、“私”と向き合った3年間でした。

物語が終わったら、少しは客観的に見れるかなと思っていました。
でも、ダメだった。
なぜって、続いているから。
私が、生きているから。
私の好きな人たちが、生きているから。
だからきっと、とりあえずの平和の中で、たえだえと息をつぎながらも、繰り返すんだと思います。
愚かな営みを。
そして、たまらなく愛しい、営みを。

私は、人が、だいすきです。

1997.6.19.　亡き父の誕生日に。

三石琴乃 葛城ミサト役

PROFILE●12月8日生まれ。アーツビジョン所属。血液型A型。『美少女戦士セーラームーン』の月野うさぎ役で広く知られる、第3次声優ブームの牽引役にして中心人物。他の代表作に『MAZE★爆熱時空』の女メイズなど多数。歌のアルバムも数多い。

彼女と出逢えて、ほんと良かった。
テレビシリーズの頃から、葛城ミサトを演るのは必死だった。だってなかなか本心を話さない人だから。たまに感情が爆発したり気持ちを吐露する場面では、私自身の感情も高まりすぎて、どんな芝居をしたのかちゃんと覚えてないことが多い（それじゃマズイのだけど）。手が震えて、持っている台本がペラペラとノイズを出さないようにする事で精一杯だった（そんな時、声優って不自由だよなぁ片端だなぁと思う）。ずっとずっと、ミサトだけを見つめて来た。知りたくて近づきたくて、五感の全てを彼女に集中した…。
そんな私だったから、全てのアフレコを終えたばかりの今、「エヴァ」を客観的に見ることができないでいる。視点はミサトと同じ位置にあるままだ。でも私は、それでいいやぁと思っている。
第25話「Air」の中での彼女は、本当に強く凛々しく、そして一人の女だった。
15年前のセカンドインパクトでの、只一人の生き残り。父のかたみのクロスのネックレス。なんだか、あのクロスをシンジ君に渡す為に、たった一人だけ生き残ってきたような気がするのは、私だけ…？
本当に重い、クロスだね。
私からミサトへ
“おつかれ。色々ありがとね♥
愛してるよ”

林原めぐみ 綾波レイ役

PROFILE●3月30日生まれ。アーツビジョン所属。血液型O型。代表作に『スレイヤーズ』のリナなど、あまりにも多数。第3次声優ブーム以前から大人気を誇り、現在のブームの基礎を作ったといえる存在。ラジオ番組のパーソナリティとしても知られる。

他人の深層心理にダイビングするのはとてもリスクのいることなのかもしれない。他人を知ろうとすればするほど、そこは深くて果てしない、ちょっぴり知れて、ちょっぴりの快楽があるだけで、決して他人にはなれない。他人の心の全部なんてわかりっこない。（だって、自分のだってわからないのに）でも、それは決して無駄な、むなしい作業な訳じゃない。理解しようとすること、近づこうと思う気持ちはとってもスバラシイ。解かりたい『欲』と解かりたい『気持ち』とは違うと思うから。だから、そんなの「うまく」できる必要なんてない。自分が不安定な人ほど他人が気になる。他人の目が気になる。でもいいんだよ。自分は自分なんだから。何を見ても、何を聞いても、何をすすめられても、何を食べても、体に取り込むのも、排出するのも自由。大変に大仰に「生きる」のも、幸せを求め「生きる」のもその人次第。激しい幸せ、穏やかな幸せ、それも人それぞれ。私は、私の心の奥にある、とても静かで、ちょっとやそっとじゃゆるがない、説明のしようがない、見えない「ソコ」と向かい合って「生きたい」と思う。だからといって、そんな生き方をすすめたい訳でも、素敵と言いたい訳でもまったくない。ただ私に向いているだけ。自分と他人は違うもの。だから時々同じになりたくなったり、してしまいたくなる。（人類補完計画のようなもの？）「こうあるべき」な～んて自分の考えを押しつけちゃったりもする。したくなるのはいいことだけど、してしまうのはよくないことな気がする。だって、それは強制、で矯正だもの。さらに言うなら、お互いで「同じになりたいね」なんてのはいい感じだ。お互いがしっかりあった上で、そんな「感じ」を持てる他人といる空間は「とても気持ち良い」。そんな他人と沢山会いたい。最後に私はＥＶＡから私なりに色々なことを得ました。ありがとう、そしておやすみなさい。目に見えるものが全てじゃないわ。

宮村優子 惣流・アスカ・ラングレー役

PROFILE●12月4日生まれ。M・Tプロジェクト所属。血液型O型。本作の惣流・アスカ・ラングレー役で大ブレイクした若手。代表作にOVA『ぼくのマリー』の雁狩マリ、『はいぱーぽりす』の夏姫など。CDアルバム『ケンカ番長』など歌の活動も盛ん。

エヴァンゲリオン、とうとう完結ですってねぇー。皆様本当におつかれ様でしたー。いやいやー。ほんにほんに、ありがとうございましたー。
思えば24年前、私が神戸でおぎゃあと産声をあげた時、エヴァンゲリオンという作品によもや自分が参加させていただくことになろうとは、あの連合艦隊の山本五十六でも、ノストラダムスでも予想できなかったでしょう。
エヴァンゲリオンの人気は、とどまることをしらない真珠湾攻撃のような快進撃ですねぇー。大和魂を持つエヴァファンの皆様は、この完結編を見るにあたっては、さしずめ、「出撃前」の「海ゆかば」を歌う気分というところでしょうか。なら、私も、皆さんを「万歳」で映画館へ送りだしたい気分ですぅ。ちなみにアフレコ時の私自身の気持ちは「カミカゼ」かなっ♥　あははっ♥　……おつかれ様でした。

山口由里子 赤木リツコ役

PROFILE●11月21日生まれ。81プロデュース所属。血液型B型。本作が初のレギュラーという若手。それまでは人形劇など舞台での活動が主だったという。ほかの代表作に『バケツでごはん』のミケミ、『愛天使伝説　ウェディングピーチ』のカチューシャなど。

「嘘つき」、この言葉を最後にリツコは消える。
一体、何に対しての「嘘つき」なのか。台本上のラストシーンは、碇「赤

声ノ出演

木リツコ君、本当に……」、リツコ「嘘つき（撃たれる）」とあるだけで、「本当に……」の後の言葉はたくさん想像できるが決められない。それほどリツコと碇の関係は複雑だった。

科学者としての赤木リツコの内面は、碇ゲンドウに愛を捧げた一途な女であり、碇に裏切られ自殺した母ナオコと同じ道を歩んでしまった、愚かな女とも言える。私としては、潔く死んでいくことを願い、都合のいい、従順な女で終わりたかった。だが前回の劇場版のリツコは、恨みだけを碇に向ける嫉妬深い女で終わっている。

私は納得がいかず、碇に殺されることを受け入れたかった。それには「嘘つき」の解釈がとても重要に思えた。

そして本番を迎えて……。

庵野監督は、私の気持ちを察してくれたのでしょうか。いざ本番というとき、最後に隠されたヒントをひと言与えて下さいました。その見事なひと言に私、赤木リツコは、完敗致しました。庵野監督、今更ながらすごいです。もう、かっこいい、天才よ。

約2年半、この作品に関わらせて頂き、本当にありがとうございました。この場をおかりして、未熟な私を支えてくださったスタッフの方々、キャストの皆様に心より御礼申し上げます。

立木文彦 碇ゲンドウ役

PROFILE● 4月29日生まれ。大沢事務所所属。血液型A型。CMナレーション多数。もっぱらファンキーな役柄を得意とする。代表作に『ミラクル・ジャイアンツ童夢くん』の柳下記者、『HARELUYA II BØY』のボブじいさんなど。歌の活動も盛ん。

テレビシリーズから春の劇場版、そして今回の完結編へと本来ならそれは、険しい山の頂きを目指すがごとく歩んで行くはずが、自身の中ではその間の“熟成すべき日々”が意に反して下降線をたどり、軽薄な魂の新たなる確認へと至った。

この作品について言葉を羅列すればする程とても“格好悪い生き方”の様な気がしてくる。しかしあえて自身の胸の内を解放するならば“エヴァに携わったボイスパフォーマー”としてのプレイは、さしずめ好プレー珍プレーならぬ、妙プレー隆プレーとでもいうのでしょうか…。碇ゲンドウという役をプレイするにあたって感情を大げさに表現しないという手法をとってはいても、このアニメの持つディテールの細やかさとトータルグレードの高さには決して一人取り残されぬよう、現時点での自身の出し得る“抑えたパワー”を搾ったつもりではいます。

孤独になりがちな役柄を寡黙に見つめてくれていた監督、そして音響ディレクターや幾人ものスタッフの人達に、私が今並べる言葉はありません。

清川元夢 冬月コウゾウ役

PROFILE● 4月9日生まれ。俳協所属。血液型AB型。多くのアニメ、海外TVドラマ、舞台で活躍する役者。特撮物の怪人役も数多い。GAINAX作品では『ふしぎの海のナディア』のガーゴイル役がある。他に『機動武闘伝Gガンダム』のミカムラ博士など。

今回が最後のアフレコだったからでしょうか。庵野監督は、かなり細かく録り直しの指示を出していました。一度、本番をやってから、1カットずつ、殆ど全部の台詞を録り直しました。

監督の想いが一杯込められているんでしょう。その庵野監督の想いに、僕ら役者が応えられているかというと、難しいですね。日本の芝居なんて、海外のものに比べると幼稚園みたいなものですから。僕らがもっと上手ければ、庵野監督の想いに応えられる芝居が出来るのに。そんな事を考えながら、最後の録音に挑みました。

春の映画が公開された頃に、地下鉄に乗っていましたらね、中学生くらいの三人が『エヴァンゲリオン』について議論していたんですよ。「あそこの解釈はこうなんだよ」「いや、そうじゃないと思うよ」という風にね。今までのアニメで、人が議論する作品ってあんまりないですよね。それは凄いことだと思うんです。

僕らが舞台でやっている芝居でも、観客がいろんな事を感じて、考えてくれる芝居が、面白い芝居であり、いい芝居なんだと思います。勿論、何も中身がないとお客さんは想像してはくれない。庵野監督は『エヴァンゲリオン』で、そういうお客さんが想像出来るところを沢山作っているんでしょう。だから、僕は凄いと思うんです。ひとつの事について、いくつもの解釈が成り立つのは、それだけ、絵と話をちゃんと作っているからでしょう。僕が40年以上、芝居をやってきて「芝居って、こういうものなんだろうなあ」と思った事を、監督は、この何年かで体得したというか、出来るようになったんですね。

今回の映画でも、特に後半部分では「えっ！？」と思うところが随分ありました。その「えっ！？」を作るために、あの人はいろんなアニメを作ってるんでしょうね。

庵野監督が、凄い人だということを、また改めて感じました。（談）

結城比呂 日向マコト役

PROFILE● 2月13日生まれ。賢プロダクション所属。血液型B型。一途で実直な少年役を得意とする若手。代表作に『覇王大系リューナイト』の主人公・アデューがある。海外TVドラマ『ブロッサム』のジョーイ・ルッソーなど、洋画・海外TVドラマも多数。

劇場版のアフレコも終わり、エヴァンゲリオンに関する役者としての仕事も、完成品を見るだけとなった。テレビシリーズ第一話が懐かしく思える。常に我々役者は、非常に淡泊に作品に関わらなければならない宿命をもっている。一つの作品が終われば又、違う作品へ思いを馳せる。しかし、エヴァンゲリオンはテレビシリーズ、劇場版一作目、劇場版二作目と、それぞれ多少の間があったものの長く作品に関わらせてもらった。自分の役柄にも、より愛着が沸いてくる。上司に対しての告白……印象深いシーンだった。自分の中だけだが、きっと彼はこう考えていたのだろう、ああ考えていたのだろうと思いめぐらせてはいたのだが……。長く関わらせてもらえたがゆえに、心の遊びが出来たのではないだろうか。自分としてみれば、得るものは多かった。それが音声に現れていたかどうかは別だが。

子安武人 青葉シゲル役

PROFILE● 5月5日生まれ。ぷろだくしょんバオバブ所属。血液型A型。『天空戦記シュラト』のガイや『新機動戦記ガンダムW』のゼクスなど、どこか影のある美形の敵役を得意とする。最近では男性声優のユニット「Weiβ」を企画・プロデュースした。

“普通”ってなんだろう？

“異常”ってなんだろう？

“普通”と“異常”を隔てる境界線は何処にあるのだろう？

ふとそんな事を考えた。

世の中あまりにも、これは良いとかこれは悪いとか、多くの人達の合意による“基準”が“普通”を決めているような気がしてならない。

本当にそれでいいのだろうか？

人とちょっとでも違ったことをすれば異端の目で見られ距離を置かれる。

違った考えをすればけむたがられる。

しかし結局のところ発展や発明などは社会からちょっと逸脱した“普通”じゃない人達によって進められているんじゃないのか？

“基準”は変わる。

エヴァンゲリオンはアニメ界に於いて“異常”だ。

多くの人達はそう思った筈だ。

しかし今アニメ界の“普通”“異常”の境界線が変わりつつある。

豊かな発想とちょっと“普通”じゃない考え。

なんだかんだ言ったって世の中を変えていくのはこういう人達なのだ。

アニメ界の“基準”が変わる。

その歴史の一片にでも参加出来たことは、幸せな事なのかもしれない。

たた願わくばもっと活躍したかった。

これが本音なのかも知れない。

僕は“普通”なのかも知れない。

長沢美樹 伊吹マヤ役

PROFILE● 7月11日生まれ。俳協所属。血液型A型。代表作に『勇者指令ダグオン』のマリア、『機動新世紀ガンダムX』のパーラ・シスなど。元気な女の子役が多い。最近では、ラジオ番組『あやかしラジオくの一番』などでのパーソナリティでも活躍中。

心が痛くなる作品でした。

続きが観たくて仕方ない作品でした。

出会えて幸せな作品でした。

そして、これからも忘れられない作品です。

石田 彰 渚カヲル役

PROFILE● 11月2日生まれ。江崎プロダクション所属。血液型O型。『STAR TREK THE NEXT GENERATION』のウェスリーや『シークエスト』のルーカスなど、海外TVドラマの美少年で有名。ほかに『美少女戦士セーラームーンSS』のフィッシュ・アイなど。

中学生のくせにやたらと物事を悟った様な大人びた言動、ちょっと近寄り難い。

初対面の相手にも笑顔で話しかける気さくさ、とりあえず好印象。

その程度の認識しかしていなかった渚カヲルというキャラクターは日を追う毎に自己主張を始める。渚カヲルを取り囲む状況が彼をエヴァンゲリオンという迷宮を探索するための水先案内人として祭り上げ、言外の意味を改めて語らせようとする。

事ここに至って、僕もカヲルを通してエヴァンゲリオンの意味を探ってみようと無い知恵をしぼって考えるのだが、自信たっぷりのカヲルの言葉とは裏腹に解らないことばかりである。ただ「命をつなぐ」という与えられた使命を全うする為に現れてあっさりと死んでゆく、まるで蜻蛉の様な存在だった渚カヲルの意味とは？　渚カヲルに関わる事が無ければこんな煩悶もせずに済んだはずだ。

しかし今回運良く最後の最後までカヲルとしてエヴァンゲリオンにつきあう事ができた。カヲルの選択は正しかったのか？　カヲルは本当に「命をつなぐ」事ができたのか？　それはシンジの仕事として託されたようだけれど、それを見届けることができて、自分の立場を素直にありがたいと思う。

MANTRA

PRODUCTION NOTE

■『THE END OF EVANGELION』のタイトルロゴは二種類作られた。一つがポスターや前売り券に使われたもの。もう一つが劇中でタイトルとして使われている、『REBIRTH』劇中のタイトルを踏襲した、手書きのもの。このパンフレットの表紙にも使われているのは、後者のタイトルロゴで。

■第２５話「Ａｉｒ」はＴＶ版制作中に仕上がった、第弐拾伍話の脚本をベースにしている。ＴＶ版の第弐拾伍話「終わる世界」は、制作期間等の問題もあり、最終話と同様の内面宇宙で展開されるドラマとなり、その脚本は使われなかったのだ。その意味では、今回の第２５話は、最初に予定されていた内容に戻されたものと云える。それに対して、第２６話は、ＴＶ版最終話に、設定的、ドラマ的な描写を加え、さらに深化したかたちでテーマを語るという内容になっている。

■今回の映画は、ＴＶ版ラスト二話のリメイクとして作られているため、ＴＶ版のフォーマットに合わせ、各話にサブタイトルとアイキャッチがつくスタイルになっている。

■アニメーション制作のPRODUCTION I.Gは、『パトレイバー２ the Movie』、『攻殻機動隊』等の劇場作品で知られるプロダクションである。今回の映画ではPRODUCTION I.Gによる「劇場用映画」としての制作編成が大きく生かされ、よりクオリティの高いフィルムとなっている。

■第２５話「Ａｉｒ」は、ＴＶ版で副監督として活躍していた鶴巻和哉が、監督を務めている。脚本は総監督である庵野秀明の手によるものだが、演出以降の作業は全面的に彼に任せられている。絵コンテとして、同じくＴＶ版で副監督として活躍していた摩砂雪と、脚本、絵コンテとして参加していた樋口真嗣もクレジットされているが、これも監督の鶴巻和哉をフォローするかたちでの参加。

■第２６話「まごころを、君に」の演出は、総監督である庵野秀明自身が担当。より彼のテイストの強いフィルムに仕上げている。絵コンテには、甚目喜一、樋口真嗣も参加。

■ＴＶ版で副監督を、『DEATH』編で監督を務めた摩砂雪は、今回の映画では、絵コンテ、原画、ビジュアルウォーターアーチストの役職で参加。水の描写はアニメーションで最も難しいとされているが、彼は今回の映画で、自然現象としての「水」「波」の描写に関する作画監督を担当。そのため、ビジュアルウォーターアーチストという役職名がつけられる事になった。また、今回の映画では、彼は宣伝用ポスターの原画も描いている。

■第２５話は作画監督が二人、第２６話は作画監督が三人立っている。第２５話は、キャラクター中心のシーンの作画監督をPRODUCTION I.Gの黄瀬和哉が担当。メカシーンの作画監督を本田雄が担当。黄瀬和哉は劇場作品『パトレイバー２ the Movie』『攻殻機動隊』等で知られるアニメーター。ＴＶ版でも二度、作画監督を担当している。本田雄は、ＴＶ版ではメイン作画監督、オープングアニメも担当。

■第２６話の作画監督は、鈴木俊二、平松禎史、庵野秀明の三人。鈴木俊二と平松禎史は、シーン毎に作画監督を担当。メカシーン、エフェクト中心のカットの作画監督は庵野秀明が担当している。

■第２６話のシンジの内的宇宙の描写のために、一部、実写の映像が使用されており、その撮影のために「特殊制作班」というチームが組まれた。このパートの脚本、総監督も庵野秀明。また、特技監督という役職で樋口真嗣が参加。この場合の特技監督は、特殊撮影における監督の意味。実際の撮影では、庵野秀明と樋口真嗣が互いに意見を出し合い撮影を進めた。

MANTRA

PRODUCTION NOTE

■『エヴァンゲリオン』ではＴＶ版でも積極的にＣＧが使われていたが、それは全てコンピュータ画面等の、平面的な（２Ｄ的）処理だった。今回の『THE END OF EVANGELION』では空間的な（３Ｄ的）広がりのあるＣＧを取り入れている。ＣＧ制作の中核になったのは、「パトレイバー２ the Movie」、『攻殻機動隊』等の作品のＣＧを担当したオムニバスジャパン。その大半が第２６話の人類補完計画発動以降のシーンで、次々に巨大な十字架が地表を埋め尽くしていくカット、無数の綾波レイが泳ぐカット等。今回は、ＣＧでは難しいと云われている[illegible]を[illegible]られるために、[illegible]る等のアナログ[illegible]ロールも、オムニバスジャパンによるＣＧである。

■PRODUCTION I.Gも、数カットＣＧを担当している。第２５話のエヴァシリーズを乗せた９機のエヴァ輸送用巨大機が最初に画面に現れるカットも、そのひとつ。俯瞰で重なり合った様に見える９機の巨大機が、それぞれ別々の方向にスライドするというカットで、通常の撮影では不可能に近いカメラワークをＣＧで実現しているのだ。映倫マークも、PRODUCTION I.GによるＣＧだ。テロップでは３Ｄアニメーターと表記されている。コンピュータ画面等のＣＧはＴＶ版と同様に、GAINAX社内で制作された。これはテロップでは、２Ｄデジタルワークスと表記されている。

■第２５話の、春に公開された完結編第一弾『REBIRTH』編と、内容が重複しているパートは、よりクオリティを上げるために、その１／４に関して、撮影等のリメイク作業が行われた

■『エヴァンゲリオン』はＴＶ版でも、春に公開された「DEATH[illegible]シック[illegible]使われていた事が印象的である。今回劇中で使用されたクラッシックは２曲。バッハの「G線上のアリア」と、同じくバッハの「主よ、人の望みの喜びよ」である

「G線上のアリア」は[illegible]によってアレンジされ、新録音されたバージョン。第２５話の、弐号機と量産型エヴァの戦闘の後半と、ゲンドウとリツコの対峙が交互に描かれるパートで使用。「G線上のアリア」の英文表記は「Ａｉｒ」であり、第２５話のサブタイトルである「Ａｉｒ」はここからとられている。「主よ、人の望みの喜びよ」は、既成の音源を編集し直したものを使用。第２６話の実写パートで使用されている。

■『THE END OF EVANGELION』のためにつくられた歌は２曲。両方とも庵野総監督、鷺巣詩郎コンビのプロデュースによる曲だ。ひとつが、第２５話本編終了後に流れる「THANATOS -IF I CAN'T BE YOURS-」。これはＴＶ版の第拾九話「男の戦い」等で使われたＢＧＭ「THANATOS（E-13）」のボーカルバージョンである。ヴォーカルはLOREN、作詞はMASH、作・編曲は鷺巣詩郎。ちなみにTHANATOSという語にはギリシャ神話に於ける死を司る神の名、精神分析における「死への衝動」等の意味がある。

■もう一曲は、第２６話で使われる挿入歌「Komm, süsser Tod」。これは庵野総監督の作詞を、英訳したものが使われている。タイトルは「甘き死よ、来たれ」の意味の独語。ヴォーカルはARIANNE、作・編曲は鷺巣詩郎。

■新たに作曲、録音されたBGMは１８曲。今回のBGMに関しては、トラックダウンに特に力が入れられ、より庵野総監督の意図に沿ったかたちに仕上げられている。第２５話で、『REBIRTH』の内容と重複している部分についても、新たに選曲が行われている。

■ＥＤテロップに、協力／昭島市立拝島保育園の項がある。これはPRODUCTION I.Gのプロデューサーである石川光久の娘さんが通っている保育園。第２６話の砂場のシーンで背後に流れる童謡に関して、なるべく生な感じの音が欲しいという要望が庵野総監督からあり、石川プロデューサー達が保育園に行き、録ってきたものだ。

愛君

第26話

MANTRA

無残に陵辱された弐号機の姿に、シンジは絶叫した。初号機の咆哮がジオフロントに渦を呼び、シンジの激昂が月よりロンギヌスの槍を呼ぶ。それは二つの計画――ゼーレとゲンドウの補完計画を開始させる引き金でもあった。槍を取り戻したゼーレは、全ての生命の等しき死と祈りをもって、人類の補完を成そうとする。複製された槍が初号機の両掌を貫き、唱和の声が世界を包み込む。儀式が、始まったのだ。一方、戦自の攻勢に晒されるネルフ本部地下――ターミナルドグマでは碇ゲンドウが、綾波レイと共にリリスの前に在った。アダムとリリスの禁じられた融合を企図するゲンドウは、レイをリリスへと誘う。上空と地下で、同時に進行する二つの補完計画。果たして、いずれの道がヒトを補完し得るのか……？答は、エヴァ初号機の中に在る……。

MANTRA

知恵の実と生命の実

「見よ、ヒトはわれわれのひとりのようになり、善悪を知るものとなった。彼は手を伸べ、命の木からも取って食べ、永久に生きるかもしれない」(創世記)。ヒトは知恵の実を取り、知恵　「科学」を手に入れた。然し、それは呪われた力でもある。「知恵」ゆえにヒトは栄え「知恵」ゆえに滅ぶのか。一方、この時、生命の実を手にしたヒトも在った。使徒だ。それは未来を賭けて争う別の可能性。もう一つのヒトのかたち。若し、両者が持つ二つの実を同時に手にする事が出来たなら……それこそが人類補完計画、ヒトを新たな段階へと進化させる呪法であった。ゼーレは知恵の実と生命の実を融合させ、エヴァ初号機を生命の樹へと還元する。黒き月の出現。レイとエヴァの同化。心の壁　A.T.フィールドを失った人々は原始の海へと還り、光の十字架が地表を埋めつくしていく。人類の補完が、いま、始まったのだ……。

MANTRA

ヒトの未来は
碇の息子に委ねられた

「あんた私のこと判ってるつもりなの」「ザワザワするんだ」「それが一番楽でキズつかないもの」「声をきかせてよ」「自分しかここにいないのよ」「僕をかまってよ」「わかってないわよ、バカッ」「このままじゃ怖いんだ」「もう側に来ないで」「曖昧なものは僕を追いつめるだけなのに」「ダメ」「僕を助けてよ」「救ってやれると思ってるの」「いつまた僕がいらなくなるのかも知れないんだよ」「哀れね」「落ちつかないんだ」「それこそ傲慢な思い上がりよ」「わかろうとした」「あんた見てるとイライラすんのよ」「だったら僕に優しくしてよ」「私としたけりゃ、お願いしなさいよ」「笑った顔でゴマかしているだけだ」「私に逃げてるだけじゃないの」「一人にしないで」「ホントに他人を好きになった事ないのよ」「僕を殺さないで」……「イヤ」

STAFF LIST

企画・原作
GAINAX
庵野秀明

脚本
庵野秀明

キャラクターデザイン
貞本義行
（コミック：月刊少年エース連載　角川書店）

メカニックデザイン
山下いくと
庵野秀明

エヴァンゲリオンコンセプトデザイン
山下いくと

エヴァシリーズデザイン
本田　雄

＃25絵コンテ
[illegible]
樋口真嗣
摩砂雪

＃25キャラクター作画監督
[illegible]
＃25メカニック作画監督
本田　雄

＃25原画
（五十音順）
安藤真裕
庵野秀明
石井明治
石田敦子
磯　光雄
伊藤岳史
今石洋之
今掛　勇
入江健司
大倉雅彦
岡村天斎
小倉陳利
鴨川　浩
河口俊夫
[illegible]
佐藤雅将
篠原健二
砂田茂樹
関口雅浩
竹内敦志
竹内志保
丹澤　学
鍋田香代子
野田武広
野中卓也
平松禎史
[illegible]
古川尚哉
本田　雄
前田真宏
増尾昭一
摩砂雪
三浦和也
村木　靖
守岡英行
森島範子
谷津美弥子
吉成　曜

＃26絵コンテ
庵野秀明
樋口真嗣
甚目喜一

＃26作画監督
鈴木俊二
平松禎史
庵野秀明

ビジュアルウォーターアーチスト
摩砂雪

＃26作画監督補佐
吉川尚哉
吉成　曜

＃26原画
（五十音順）
庵野秀明
今石洋之
入好さとる
小倉陳利
亀井幹太
河口俊夫
黒沢　守
[illegible]
牛来隆行
佐々木守
杉浦幸次
[illegible]
丹澤　学
坪内克幸
戸倉紀元
中山勝一
野田武広
橋本敬史
長谷川眞也
平井久司
平松禎史
古川尚哉
星　和伸
摩砂雪
増尾昭一
もりやまゆうじ
吉成　曜

＃26レイアウト協力
貞本義行

動画チェック
村田康人

動画
Production　I.G
山崎嘉雅　中林美佳
泉　広代　五十嵐洋美
和田さつき　小倉雅誉
藤田要香　植竹裕子
I.G新潟
石崎和哉　岡　啓之
安達賢二　三田由起子
森田　史　森田　典
早川紀秋　竹内哲也
石川健朝　小針寺雄
GAINAX
高村和宏　佐伯昭志
小野修次　[illegible]
末冨慎治　石崎寿夫
永浜弘子
A.I.C
新井貴弘　玄馬宣彦
佐々木世子也　山内大輔
XEBEC
朝来昭子　髙橋香織
越後谷寛　堀たえ子
たくらんけ
寺田久美子　石川智美
小松英司　川田栄三
スタジオワンパック
かわのやすひろ　高尾睦美
番由紀子　下山弥生
アニメ・スポット
花井宏和　中澤宏和
磯部智子　館山富美子
[illegible]
玉利和枝　長沢美奈子
小林哲也　江川陽司
スタジオジュニオ
追崎史敏　長谷川淳也
サムタック
荒木祐一郎　玉村久実子
OHプロダクション
一之瀬美鈴　草刈大介
ウォンバット
上口正樹　久保　正
橋本宜夫　岩田義昭
ビッグバン
大村英巨　清島孝一郎
添田直子　西野　大
スタジオ・ファンタジア
前田ひとみ　高橋大輔
スタジオシータ
川田　学　徳江規子

3Dアニメーター
松本　薫（Production I.G）
山崎嘉雅

2Dデジタルワークス
神村靖宏
神村典子
外山昌平
辻　典和

設定デザイン
[illegible]
[illegible]
庵野秀明

作画参考モデル製作
吉山治樹（kip）
谷　明（海洋堂）

色彩設定・色指定
高星晴美
仕上
Production　I.G
渡辺陽子　山崎麻衣子
加藤玲子　小島真喜子
[illegible]　敦賀　忍
津守裕子　伊藤光子
小山千代美　工藤美和
中川　恵　村瀬智子
金子義幸
スタジオ・ロード
高谷知恵　中島敦子
古川　誠　山本真弓
小堺恵理
エムアイ
新里美千代　清野晴美
[illegible]　上村貴子
菅野真由美　奥野佐代子
スタジオアド
沢目まゆみ　日野正秋
田城秋子　宮崎真名美
猪俣　泉　小原藤江
船津成美　長菅雅子
佐々木晶子　小島登美子
スタジオオーエム
成田照美　田原愛子
太田裕子　植山幸子
川畑真希子　石戸谷静
[illegible]　土岐智子
白戸勝彦
A.I.C
土屋　智　木村栄美子
阿部紀子　北村浩二
江口哲治　佐藤直子
アートランド
[illegible]　天明屋麻美
西　栄子　[illegible]久美
渡辺秀信　宮田　亮
スタジオOZ
[illegible]　細谷明美
平賀恵子　白川千映
中島敦美　篠田十紀
スタジオキリー

animo（デジタルペイント）
Production　I.G
内林裕美　井上佳津枝
佐久間未希　浅野理恵
佐藤珠香　茂木早苗

仕上検査
山下弥生　片山由美子
渡辺陽子　山崎麻衣子
特殊効果
莉　名
太田憲之
リスワーク
マキ・プロ
GAINAX　SHOP

[illegible]
加藤　浩
[illegible]
スタジオ美峰
荒井　賢
岡部　順
竹田悠介
井芹達朗
串田達也
[illegible]
吉原俊一郎
根崎知恵子
佐藤　勝
[illegible]
加藤朋則
土屋　清
穴井卓爾
川又友和
平沢晃弘
小泉壮平
[illegible]
杉澤祐一郎
加藤　浩

撮影監督
白井久男
撮影助監督
黒田洋一
撮影
スタジオコスモス
池上元秋
前原勝則

大藤哲生
野口博志
池上伸治
鵜島尚久
島田隆志
久野利和
矢板橋淳二
古澤功一
矢沢昌二
平野可南絵
宮田一美
粟倉正文
西山朋広
山口則和
藤田有紀
出井久美子

編集
三木幸子
編集助手
中野ちひろ
津留洋子
石山かつみ
友情編集
薩川昭夫

CG制作
オムニバスジャパン
CGプロデューサー
原戸洋一
CGプロダクションマネージャー
小山晴生
CGディレクター
田中誠一
CGアニメーションディレクター
佐藤伊佐勇
CGアニメーター
小林　貢
宗片純二
モデリング
渡部　暁
モデリング協力
オガワモデリング
デジタル3Dセクション
鹿野文浩
日下文孝
マノジュ　マントリ
西島大介

CGスタッフロール
津田くみえ
有井孝典
太藤新陽
菅原恵美
富田育紀
箱崎真理子
渡多野麗世
廣田俊明

オプチカルCGエフェクトチーム
フィルムディレクター
指宿太郎
テクニカルエフェクト
太田勝也
テクニカル
星野直哉
フィルム担当
中岡哲治
制作協力
柳田弘樹
斉藤泰彦
佐藤直樹
床井　悟
オプチカルCGエフェクト協力
尾出敬子

特殊制作班
脚本／総監督
庵野秀明
ラインプロデューサー
南里　幸
特技監督
樋口真嗣
特殊助監督
神谷　誠
撮影監督
長田勇市（J.S.C.）
撮影
大川藤雄
撮影助手
柴主高秀
村川　聡
寺田緑郎
山本圭昭
澤井貴善
録音
橋本泰夫

録音助手
清水和法
編集
要田浩史
ネガ編集
田辺賢治
ノンリニア編集
村山勇二
タイミング
小椋俊一
美術
松田光弘
伊藤章雄
デジタルエフェクト
吉賀信明
スタイリスト
岡崎さをり
メイク
山賀章子
池野千夏
制作担当
増渕滋夫
制作進行
鳥澤　晋

出演
宮村優子
三石琴乃
林原めぐみ
関　智一
山口由里子
夕樹舞子

制作協力
シネ・バザール
協力
日活撮影所
IMAGICA
日本コダック
ナック
ホバイアート
アスカロケリース
新宿ミラノ座
衣装協力
EDWIN.
AMERICANINO
FIORUCCI ITALY
SOMETHING

株式会社シャミオール
Hoo-ha・by To First
IKUKO
株式会社イコール
株式会社アートバーグ
COSPA COSTUME PARADISE
PAPER MOON

音楽
鷺巣詩郎

幕間の唄
「THANATOS
－IF I CAN'T BE YOURS－」
詞：MASH　曲・編：鷺巣詩郎
歌唱：LOREN & MASH

音響監督
田中英行

声ノ出演
緒方恵美
三石琴乃
林原めぐみ
宮村優子
山口由里子
立木文彦
清川元夢
山寺宏一
子安武人
緑川光
長沢美樹
麦　人
石田　彰
川村万梨阿
沢木郁也
永野広一
松本保典
大山高男
長嶺高士
菅原淳一
矢島晶子
山野井仁
渋谷　茂

効果
野口　透（アニメサウンド）
録音調整
住谷　真
佐竹徹也

キャスティング協力
好永伸恵
音響制作
オーディオ・タナカ
音楽制作
スターチャイルドレコード
音楽制作協力
テレビ東京ミュージック
音響スタジオ
東京テレビセンター

現像
IMAGICA
タイミング
平林弘明
上野芳弘
オプチカル
柴田祐男
灰原光晴
デジタルエフェクト
佐々木弥生
竹谷卓郎
演出助手
大塚雅彦
安藤　健
撮出し協力
荻　光憲
宣伝美術
ENGLISH LANGUAGE ADVISER
Michael House
地形データ協力
小松　隆
協力
昭島市立拝島保育園
宣伝
佐藤裕紀
小出真佐樹
脇坂守一
メイジャー
宣伝協力
スタジオ雄
制作担当
松井正一
西沢正智
制作進行
須藤　隆
山本秀世
伊藤正博
川又　卓

天貝知広
榊原　広
黒澤　亘
杉谷光一

プロデューサー
石川光久

アニメーション制作
PRODUCTION I.G
GAINAX

DOLBY
一部上映館を除く
技術協力　森　幹生
コンチネンタルファーイースト社

製作
角川歴彦
池口頌夫
山賀博之
鳥嶋和彦
製作補
中山晴喜
高橋　豊
製作
EVA製作委員会
角川書店
Project Eva.
GAINAX
テレビ東京
セガ・エンタープライゼス
東映
配給
東映

監督・演出
鶴巻和哉
庵野秀明

総監督
庵野秀明

©1997 GAINAX／EVA製作委員会

IMPRINT 編集／スタジオ雄　構成・取材／小黒祐一郎（スタジオ雄）　編集スタッフ／博多正寿（スタジオ雄）、小川びい、大河内一樹　編集協力／高橋知子、吉岡隆志　アートディレクション・CGヴィジュアライズ／根津典彦（FACE）　カメラマン／真崎可奈子　協力／GAINAX

歓喜の歌

THE END OF EVANGELION

新世紀エヴァンゲリオン劇場版 Air／まごころを、君に
劇場使用曲

8/1発売

1. THANATOS−IF I CAN'T BE YOURS− VOCAL : LOREN & MASH
2. Komm, süsser Tod VOCAL : ARIANNE
3. II Air ［オリジナル・サウントトラック、G線上のアリア］

CDS : KIDA-155　定価¥1,020（税抜価格¥971）

☆オリジナル・サウンドトラックアルバム　9/26発売予定

テレビシリーズ収録ビデオ・LD "Genesis 0:1～0:10" 発売中！

◎ビデオ各巻／税抜価格¥5,146
◎ＬＤ各巻／税抜価格¥5,631

（以下続刊）

DVD 新世紀エヴァンゲリオン Volume 1

KIBA-1／税込¥6,930（税抜¥6,600）　NOW ON SALE
◎ＴＶシリーズ第壱話～第四話収録

［映像特典］
・収録話のアフレコ台本静止画
・キャラクター設定資料
・用語集
・スタッフ・キャスト紹介

☆Volume 2　8/21発売予定（以下続刊）

Distributed by KING RECORDS

©1997 GAINAX／EVA製作委員会

知恵の実

月刊少年エース

定価390円
「新世紀エヴァンゲリオン」大好評連載中!!
毎月26日発売!!

大絶賛発売中!!

◆角川コミックスエース

新世紀エヴァンゲリオン1～3

漫画／貞本義行　原作／GAINAX
本体価格各540円（税別）
待望第4巻今秋発売予定!!

最新刊 ◎7月発売

◆ニュータイプフィルムブック

新世紀エヴァンゲリオン フィルムブックDEATH編

ニュータイプ編　本体価格600円（税別）

◆ゲーム関係単行本

新世紀エヴァンゲリオン セガサターンパーフェクトガイド

ゲームクエスト＆ゲームウォーカー編
本体価格1,500円（税別）

◎8月発売予定

エヴァンゲリオンＣＧ写真集

2015

ＣＧワーク/亀井一郎　本体予価5,000円（税別）

◆ゲーム関係単行本

新世紀エヴァンゲリオン デジタルファイル

コンプティーク編　本体予価1,100円（税別）

角川書店
〒102 東京都千代田区富士見2　13　3
TEL 03−3238−8521
振替　00130−9−195208

©GAINAX
©1997 GAINAX　EVA製作委員会
©GAINAX　Project Eva・テレビ東京・NAS

MANTRA

リアルモデルシリーズ

SEGA

新世紀エヴァンゲリオン

リアルなキャラクターの造形とブリスターパッケージの魅力で日本にも定着しつつあるアクションフィギュアに、ついに「エヴァ」が登場!!

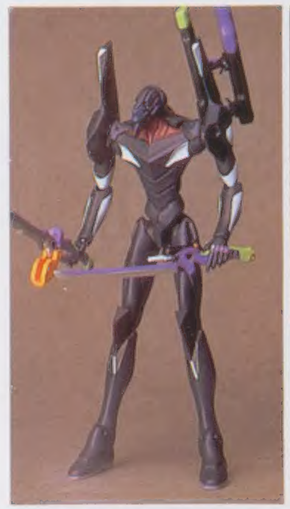
●ノンスケール頭上高約18cmのコレクションモデル
●塗装組立済
●関節可動、ポーズ変更可能

全機健在

背中の翼が開閉、脱着可能

量産機付属装備

リアルモデルシリーズ NO.9
エヴァンゲリオン量産機
7月発売 1,980円(税別)



参号機から第13使徒バルディエルにチェンジ可能

参号機付属装備

リアルモデルシリーズ
エヴァンゲリオン参号機
7月発売 1,980円(税別)

株式会社セガ・エンタープライゼス

©GAINAX / Project Eva. / テレビ東京 / NAS
©1997 GAINAX / EVA製作委員会

COMING SOON
[全国アミューズメントパークで展開]

●8月発売
新世紀エヴァンゲリオン
プリクラシール

●7月発売
ジッパーフィギュア
新世紀エヴァンゲリオン

●8月発売
新世紀エヴァンゲリオン
マグカップ

●7月発売
メタルフィギュア
新世紀エヴァンゲリオン

●8月発売
新世紀エヴァンゲリオン
ぬいぐるみ補完計画

THE END OF EVANGELION
劇場オリジナルキャラクターグッズ
通信販売

Air/まごころを、君に

以下の商品は映画公開後、インターネットホームページでもお取扱いする予定です。
HOME PAGE ADDRESS
http://www.toei.co.jp/movie/

表 裏
①下敷き315円

②ノート262円

③クリアファイル
367円 A4サイズ

⑦シンジ ⑧レイ ⑨アスカ ⑩初号機

⑦〜⑩キーホルダー各種 各525円

④ステッカー
315円

⑤エントリープラグシャープペン
367円

⑥ラミカード5枚セット 525円

⑪メタリックポスター
525円 B2サイズ

⑫NERVワッペンセット
892円

⑬パスケース
525円

裏

⑲ピンズAアダム
525円 ケース付き

⑳ピンズBリリス
525円 ケース付き

㉑蓄光スイングキーホルダー 840円 高さ165mm

⑭テレカA
1,000円
(50度数)

⑮テレカB
1,000円
(50度数)

⑯テレカセット3枚組 3,500円

⑰PEN²アイスマグカップ
(保冷カップ) 1,050円

⑱ポストカードセット 420円
3枚組

裏

㉒NERVキャップ
2,625円

㉓Tシャツ 2,940円
フリーサイズ

㉔タペストリー 1,575円
900×600mm

㉕NERVミニパイプチェア
2,625円 巾着袋付き

㉖ショッパー 420円
高さ430mm
裏・NERVマーク

表 裏

㉗バックタック 840円
80×55mm

㉘マウスパッド 1,575円

㉙NERV浴場備品セット 3,675円
湯桶、石けん、タオル×2、巾着

㉚NERVネクタイ
5,250円

©1997 GAINAX / EVA製作委員会
商品のデザインは変更になることがあります。あらかじめ御了承下さい

通販お申し込み方法

まず、ハガキで注文して下さい。代金は後払いです。

●ハガキの書き方

1.注文する商品と数を記入
2.住所、お名前、年齢、TEL
3.印かんを押す
(押してないものは18歳以上の方も無効です)
4.保護者の署名

(例) 〔うら〕
①下敷き×1
⑨キーホルダーアスカ×1
⑲ピンズAアダム×1

〒□□□-□□
県 市
町 番地
お名前(ふりがな) 年齢
TEL
印
保護者署名

〔おもて〕
50円切手
〒173
板橋区弥生町77〜3
97東映㈱
㈱ムービック内
夏「エヴァンゲリオン」通販係

●18才未満の方は、保護者の方に確認の上ご注文下さい。(必ずハガキに署名をもらって下さい)

●代金のお支払いは、商品と同封されている振込用紙でお近くの郵便局から2週間以内にお振り込み下さい。なお、3000円以上商品をご注文の場合は、商品をお届けした配達員に代金をお支払いいただく代引き払いとなります。

商品代金 ＋ 荷づくり送料(一律500円) ＝ 合計金額 となります

●商品のお届けは、ハガキ受付後およそ30日程かかります。
●商品が届いてから1週間以内でしたら返品できます。
その場合の送料は、お客様の負担とさせていただきますのであらかじめご了承下さい。
●お申し込み受付〆切日は、1997年9月19日(金)必着です。
商品は数に限りがございます。品切れの際はご了承下さい

お問合わせ先 ㈱ムービック通販係
Tel.03-3972-1150 ㊐月〜金・朝10:00〜夕方5:00まで
※電話でのご注文はご遠慮下さい。
●一枚のハガキで、すべての商品をお申し込みになれます。

まさに理想の世界

完全なコレクションに進化させる補完計画

119mm×63mmのワイドサイズにDEATH&REBIRTHの全てを凝縮。

カードダスマスターズワイド
新世紀エヴァンゲリオン劇場版
シト新生

◆1パック330円（税込み）
◆1パック7枚入り
◆全132種（SPカード6種）
SPカードは8パックに1枚の割合で入っています。
◆8月上旬発売予定

HGシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン 第参弾

使徒、襲来。
EVA、覚醒。

◆200円カプセル商品（税込み）
◆彩色済み塩ビ人形全6種
◆好評発売中

©1997 GAINAX／EVA製作委員会
©GAINAX／Project Eva.・テレビ東京・NAS

発売元：株式会社セガ・エンタープライゼス
製造元：株式会社バンダイ

※お問い合わせは
バンダイ　ベンダー事業部　03-3847-5103まで

努力と根性

OVA史上、無敵の感動がニュープライスで登場!!

トップをねらえ! GunBuster

監督／庵野秀明　制作／GAINAX

LD：BEAL-1039,1040,1041／1989年度作品／カラー（一部モノクロ）／各59分／デジタルステレオ／CAV／全6話（各巻2話収録）
ビデオはビクターエンタテインメント(株)より発売中
（全3巻 各3,800円）

【毎回映像特典】
「トップ～」のSF概念を、ノリコとカズミが楽しく解説する「科学講座」を各巻に収録。
VOL.1「科学講座①、②」／VOL.2「科学講座③、④」
（VOL.3には収録されておりません）

©BANDAI・VICTOR・GAINAX

LD全3巻 9.25 ON SALE !!

各5,800円（税抜）

GAINAX初の劇場アニメ、完全版で遂にビデオ化！

王立宇宙軍 ～オネアミスの翼～

【完全版・英語版】 7.25 VIDEO ON SALE 各3,800円（税抜）

VC：BES-1749（完全版）、1750（英語版）／カラー／各120分／ステレオHi-Fi
ドルビーサラウンド／字幕スーパー（英語版）／ビスタサイズ／© BANDAI VISUAL／GAINAX

販売・お問い合わせ先　バンダイ ビジュアル株式会社
東京本社　〒111 東京都台東区松が谷1-3-5　SEFビル3F　TEL (03)-5825-3001　FAX (03)-5828-3010

EMOTION とにかく元気!

MANTRA

THE END OF EVANGELION

プラモデル新世紀、ここに極まる!!
驚愕のラインナップ、衝撃のデビュー!!

LM HG

※イラストと商品とは多少異なります

エヴァンゲリオン4号機
<LM-HG>……¥3,000
(8月発売予定)
多色多重成形　シルバーメッキ仕様
全身可動模型
子供時代のレイ・アスカ・さるのぬいぐるみ フィギュア
改良型ポジトロンライフル付

エヴァンゲリオン量産機 最終戦仕様
<LM-HG>……¥3,000
(9月発売予定)
頭部可動骨格　多色多重成形
全身可動模型
冬月コウゾウ・キールローレンツ フィギュア
ロンギヌスの槍付

第3使徒　サキエル
<LM-HG>……¥3,000
(9月発売予定)
可動骨格　軟質表皮
全身可動模型
洞木ヒカリ・相田ケンスケ フィギュア
光の槍付

©GAINAX/Project Eva.・テレビ東京・NAS
©1997 GAINAX / EVA製作委員会

エヴァンゲリオン初号機

エヴァンゲリオン弐号機

エヴァンゲリオン零号機

エヴァンゲリオン零号機改

エヴァンゲリオン参号機

第13使徒　バルディエル

エヴァンゲリオン量産機

エヴァンゲリオン初号機 輸送台仕様

<LM-HG>……各¥2500　<LM-HG>¥3500

BANDAI
株式会社バンダイ
ホビー事業部
東京都台東区駒形2-5-4 〒111-81
TEL.03-3847-5116(直通)

※商品は、写真と多少異なる場合があります。
※価格は、メーカー希望小売価格です。
尚、この価格には消費税は含まれません。
※地方により商品の発売が遅れる場合があります。

バンダイホビーニュース・FAX情報サービス(新製品・発売日・イベント等)
●ご利用方法(FAXの受話機で)▶1. 03-3249-7210におかけください。(24時間受付) 2. アクセスコード0079#を押してください。3. 案内の後にスタートボタンを押してください。◆通話料は、負担していただきます。
●ご利用方法についてのお問い合わせ先は、システムお問い合わせセンターまで
TEL.03-3249-7997
(毎週月～金曜日 午前10:00～午後6:00)

108PCS
コレクションシリーズ
各1,200円(外税)

01-582 碇シンジ

01-583 綾波レイ

01-584 惣流・アスカ・ラングレー

01-585 渚カヲル

01-586 葛城ミサト

01-587 赤木リツコ

01-588 伊吹マヤ

01-589 洞木ヒカリ

01-590 碇ゲンドウ

01-591 加持リョウジ

01-592 冬月コウゾウ

01-593 鈴原トウジ&委員ノンスケ

01-594 EVA初号機

01-595 EVA零号機

01-596 EVA弐号機

07-343 心の翼　750PCS ¥2,500(外税)　NEW

05-595 願い
500PCS ¥2,000(外税)

03-420 縁(少年の場合)
300PCS ¥1,400(外税)

05-631 咆哮
500PCS ¥2,000(外税)　NEW

05-630 安息日
500PCS ¥2,000(外税)　NEW

NEON GENESIS EVANGELION JIGSAW PUZZLE

10-541 運命　1000PCS ¥3,000(外税)

10-633 使徒襲来　1000PCS ¥3,000(外税)　NEW

03-433 一時　300PCS ¥1,400(外税)
NEW

03-421 縁(少女の場合)
300PCS
¥1,400(外税)

NEW
7月22日発売予定

ジグソーのこと好き?

©GAINAX/Project Eva.・テレビ東京・NAS

株式会社 やのまん
東京都墨田区本所4-19-3
アサイビル
03-3625-1146
YANOMAN

MANTRA

THE END OF EVANGELION

新世紀エヴァンゲリオン劇場版　Air／まごころを、君に

1997年7月19日発行　発行所／東映（株）事業推進部　印刷／三映印刷（株） ©1997 GAINAX / EVA製作委員会　禁無断転載・複製 定価800円（消費税込）

MANTRA